

トラック1…新学年

場所…春休み明け。通学路

(一緒に歩く)

【位置…右耳側50センチ】

そうですね。久々の学校です。

どこかの馬鹿な先輩に、地の果てまで追いかけて回されたおかげで、この春休みは随分と長く感じましたよ。

いやはや。

春は変態が出没する季節と言いますが…。

身をもって実感した2週間でした。まったく…。

……。

ふふ。元気そうに見えますか？

残念ながら、そういうフリをしているだけですけどね。

…実際のところ私は今。

学校へ行くのが、怖くてたまりません。

【次の四行、最初の二行は平然と話す。

後半の二行は、少しだけ暗いトーンで】

…ふふ。あのですね。

私の学年に一人、

向こう側へ行ったきり、戻って来なかった子がいるんですよ。

ですから学校へ行って、その子の空っぽの席を見るのが、恐ろしい。自らの犯した罪を、眼前に突きつけられるのが……。

……。

【元の平然としたトーンに戻って】

あは。そういう言葉は聞き飽きましたねえ。

「峰岸は悪くない。」

「思い詰める必要は無い。」

毎度毎度砂糖菓子のように甘い言葉を、

よくもまあ真剣な顔で語れるモノです。

どう考えてもあの事件の責任は、私にあるというのに……。

あーはいはい。わかりましたよ。

【位置…正面斜め右耳側50センチ】

【次4行、凄く棒読みで、バカにするように。】

あーん。先輩かっこいー。

そうですねー。私悪く無いですよねー。

これからは事件の事は忘れて、

先輩との楽しい青春だけを考えて生きて行きます。

【演技元に】

はい。これで満足でしょうか。

あは。そりゃあ茶化しますよ。

春休み明け早々、面倒な話題をこねくり回したく無いですからねえ。

【位置…右耳側50センチ】

【次の一行は、ちゃんと甘える感じの声色で。】

…ほら。手を繋ぎましょう？ 先輩。

この桜並木にはやはり。

重苦しい話より、

初々しくイチチャイチヤするのがお似合いです。

【位置…次のセリフ、右耳側0センチへ近づきながら】

ええ。それでは……。

【ここから囁き（有声音）】

ぎゅっ……。

…ふふ。くつつき過ぎですか？

良いじゃ無いですか。人もいない事ですし。

まあ、見られて噂されても、私は一行に構いませんけれど…。

はいはい。

では次の曲がり角まで歩いたら、少し離れてあげますよ。

全く恥ずかしがり屋さんですねえ、この先輩は。

（歩き始める）

ん…。

おや先輩。少し歩くのが早いですよ。

歩く速度を女の子に合わせるのは、そもそのマナーでしょう？
ちゃんと峰岸穂乃果ちゃんのペースに、合わせてください。

ほら。このくらいペースで歩きましょうね。
一歩……。二歩……。三歩……。四歩……。

いえいえ。遅くありませんよ？

私はいつもコレくらいのペースで歩いています。

先輩はおバカだから、気が付かなかったただけではないでしょうか。
ふふふ。

（しばらく歩く）

【位置…右耳側15センチ】

【ここから、遠くを眺める感じで透き通るような声で。】

（ヒロインの心境としては、

「行方不明事件を忘れさせないため、

世界が綺麗な桜を私に突きつけて来ているんだろうなあ…」

みたいな感じです。）

……。

すう……。ふう……。　（深呼吸一回）

…ねえ先輩。

桜が綺麗ですね。

沢山の死体の上に咲いているから、
今年の桜はこんなにも、美しいのでしょうか。

…ネタにもならない？

ええ。ネタじゃありませんから。

あはは。

トラック2…空席

場所…先輩の教室の前

【位置…正面50センチ】

せーんぱい。

ふふ。そうですよ。

先輩を待っていたんです。

春休み明け初日、お疲れ様でした。

どうですか？ 新しい学年。新しいクラスは。うまく馴染めそうですかね。

ふふ。それは何より。

私ですか？

【次のセリフは暗く読まず、平然と】

私のクラスは…。

正直なかなか、過ごしにくい場所になりそうですね。

ええ。それはもう。

…あは。

気になるなら帰る前に、

私の教室、寄って行きます？

新しいクラス、先輩に紹介してあげますよ。

場所…峰岸の教室

【位置…正面斜め右耳側30センチ】

…という訳で。ここが私の新しいクラス。
2年C組です。

【位置…次の行、正面斜め左耳側50センチへと離れながら】

私の席は窓際の、前から3列目で……。

…この席ですね。

SE…席に座る

【位置…正面50センチ】

あのですね、先輩。
もう既にこのクラスは、今日で席替えまで終わってまして。
私は前期の間、このポジションで過ごすことは確定なんです。

【次の一行、少しため息混じりに。】

……ですが。

この席配置というのが、なかなか因果なモノでして。

ふふ。というも。ここ。

私の隣。例のあの子の席なんですよ。

あの子と言うのはあの子ですよ？

向こう側へ行ったきり帰ってきていない。行方不明の子。
今朝、私の学年に一人いると、お話したでしょう？

ええ。

つまり私は前期の半年間の間、隣の空っぽの席に苛（さいな）まれながら過ごすことになってしまったと…。そういう訳ですねえ。いやはや。偶然なのか必然なのか……。

……。

…いえ。別に大丈夫です。

大丈夫というか、

私は自身のことを、罰せられるべき人間だと思ってますから。この状況はあるべき姿だと、受け入れているんですよ。

私がしたことを考えれば、

「半年間席の居心地が悪く、

隣を見るたび事件の事を思い出してしまう。」なんて、受けて当然の報いで……、

むしろ、この程度では全く足りないくらいでしょう。

はいはい。先輩の甘言（かんげん）は聞き飽きました。取り合いませんよ。

そんなに私に思い詰めて欲しく無いのでしたら、変な口論に持ち込まず、キスでもするんですねえ。

先輩にキスされてる間は、さすがの私も…

【位置…次の「んっ…！」で、正面5センチへ移動】

【次の「んっ…！」で、突然キスされる。】

んっ………！

【深めのキス10秒】

【位置…ここ、キスの後ですが、割と余裕ある感じで。】

…あは。先輩は時々大胆ですね。

【次のセリフ、少し真面目な雰囲気です】

…ええ、知ってますよ。

あなたが真面目に、私を心配して下さっていること。

ですが、

「お前は悪くない」なんて言われて素直に受け入れられる程、あの事件は軽いモノでは無いんです。

それくらい、おバカな先輩でも分かるでしょうに。

ふふ。つまり先輩に出来るのは、

今の様に口づけをして、

私の思考を鈍らせるのが精々という事ですねえ。

ほら。もっとキスしたらどうですか？

ちゃんと舌を絡めて、

何も考えられないくらい深いベロチューをしてあげないと、

あなたの大好きな峰岸穂乃果ちゃん、

どんどん自責の念に沈んで行っちゃいますよ？

【ここから、深めのキスしながらセリフ】

はむ……。んちゅ……。ちゅ……。ちゅぱ……。
ふふ。そうそう。

んちゅ……。むちゅ……。ちゅ……。んちゅ……。
必死にキスして、私の事大好きですねえ。
むちゅ……。ちゅ……。ちゅぱ……。ちゅ……。
んちゅ……。ちゅ……。ちゅぷ……。むちゅ……。
もつと……。もつとですよ、先輩……。
んちゅ……。ちゅ……。

ちゃんと何も考えられなくなるくらい……。
気持ちいいキスをして下さいね……。
んちゅ……。むちゅ……。ちゅぷ……。んちゅ……。

【引き続き、深めのキス15秒】

ふう……。

あは。お顔とろけさせて。

私より先輩の方が、頭ぼーっとしてるじゃないですか。
相変わらず快感によわよわで、情けないですねえ。

んー……？

おちんちん、おつきくなっちゃいました？

…あは。それなら帰りましょうか。

流石にこの席の隣で、セックスする気にはなれませんか。
私の家まで、おちんちん我慢してください。先輩。

トラック3…制服騎乗位えっち

場所…続き、峰岸の家

【位置…正面50センチ】

ただいまです。

ふう…。ようやく帰って来れましたね。
久々の学校だと、中々通学路が長く感じます。

さて。それでは……。

【位置…次の「ぎゅーう」は、

正面5センチ位から、右耳側0センチへ移動しながら】

ぎゅーう。

【ここから囁き（有声音）】

【次の一行は、少し興奮した感じの吐息】

ん……はあ……。

…ええ。えっちしますよ。
そういう話だったでしょう？

……ほら。

三歩下がれば、私のベット。
そこまで行ったら、押し倒してあげます。

一歩…。二歩…。三歩…。

あは。あんよが上手ですねえ、先輩。
素直で可愛いですよ。

SE…押し倒す音

【囁き終了】

【位置…正面5センチ】

んー……？

ええ、今日は制服のままします。
せっかく学校も始まりましたし、
学生らしい装（よそお）いをする方が、
風情があるというモノでしょう？

【位置…正面30センチ】

ほら。おちんちん取り出して……。

高校生の女の子のトロトロおまんこに、突っ込んじやいますね。

【次の2行で挿入】

んっ……。あっ……。

あっ……！ ん……。んあっ……！！
（挿入）

【位置…次の一行で、

呼吸を整えながら、右耳側5センチへ移動】

はあ……。はあ……。ふう……。

ふふ。

スカートだとパンツをズラすだけでおちんちん挿入できますから、
楽で助かりますねえ。

おそらく制服は、えっちをする時の事まで考えて、
デザインされているのでしょう。

いやはや。学校の素晴らしいお心遣い…。
コレはいっぱいおちんちん出し入れして、
応えなければいけません。

SE:ピストン開始

【ここから喘ぎながらセリフ】

【ピストンは、後半スパートをかけるので、少しゆっくりめ】

んっ…。あっ…。あっ…。んっ…。
んっ…。あっ…。はぁ…。はぁ…。

ほら。どうですかぁ？

先輩が大好きな、峰岸穂乃果ちゃんのおまんこですよ。

んっ…。ふう…。

毎日毎日生ハメして、中出ししてる、先輩専用おまんこ。
おちんちんにピッタリ絡みつきますね。
気持ちいいですか？

あっ…。はぁ…。んっ…。ふう…。

今日も沢山、精液注いでくださいね。

んっ…。ふう…。

私のおまんこも、子宮も、
先輩おちんちんに中出しされるためだけのモノですから。
しっかり先輩の精液で満たして頂かないと、
存在意義を失ってしまいます。ふふふ。

んっ…。ふう…。はぁ…。はぁ…。
あっ…。んっ…。ふう…。はぁ…。

【耳舐め20秒】

あっ…。んっ…。はぁ…。はぁ…。

ふふ。可愛らしい声。

相変わらず女の子みたい喘ぎますねえ。この先輩は。

あっ…。はぁ…。ふう…。ふう…。

そんな高い声でよがって…。

着る制服、間違えてるんじゃないでしょうか。

私なんかより余程、スカートがお似合いですよ？ 先輩。ふふふ。

【位置…次の喘ぎで正面5センチへ移動】

んっ…。ふう…。はぁ…。ふう…。

あっ…。んっ…。ふう…。はぁ…。

んー……？

なんかじゃない？

おや。そうですか。

私の制服、似合ってますか。

あっ…。はぁ…。

ふふ。

別にそういうことを言って欲しくての発言では無かったのですが…。まあありがとうございますと、言っておきましょうか。

んっ…。はぁ…。

せっかくの制服えっち、ですしね。
先輩のお眼鏡に叶って、嬉しい限りです。ふふふ。

あっ…。んっ…。はあ…。ふう…。
んっ…。ふう…。はあ…。はあ…。

しかし、良かったですよ。
今回は、

「悪くない」ではなく、
ちゃんと「似合っている」と、言って頂けて。
私も随分、昇進しましたねえ。ふふふ。

んっ…。あっ…。はあ…。はあ…。

あは。それはもう根に持ってますよ。初エッチの事。
最初の誘惑を断られたことも含めて、散々な扱いでしたからねえ。
初体験の酷さは、
先輩への恨み言、第二位にランクインしてます。

んっ…。ふう…。はあ…。はあ…。

【ピストン一旦ストップ。ここから喘がず読む】

【位置…左耳側0センチ】

【ここから囁き（有声音）】

……ちなみに第一位は言うまでもなく。
向こう側で私を助けて下さったこと。

……今でもしっかり恨んでますよ。
大好きですけど。

（←おちんちんが跳ねたことに対する喘ぎ）

んっ…。あっ…。

【位置…正面5センチ】

…あは。

どうして今の流れの「大好き」で、おちんちんを跳ねさせるんでしょうかねえ。

先輩は文脈の読めない、おバカさんなんですか？

それとも性癖が終わっているから、今ので興奮するのでしょうか。

ああ、両方でしたねえ。そういえば。

相変わらず救いような無い事で…。

【深めのキス20秒】

【←キスの後、一息ついた後微笑む】

ふう…。ふふ。

【位置…左耳側0センチ】

【ここから囁き（有声音）】

ほら、おバカで性癖終わってるダメおちんちん。

おまんこで搾ってあげますよ…。

私、先輩の事ホントに恨んでいますから。

ここからはそれが分かるよう激しく腰を打ち付けて、おちんちん空っぽになるまで、イジメてあげますね。

【囁き終了】

【位置…右耳側5センチ】

【ここから、激しく喘ぐ】

（さらにペースアップするので、少し余力は残して欲しい）

んっ、あっ、あっ、あっ。

はぁ、はぁ、あっ、あっ。

ん、ん、あっ、あっ。

はぁ、ふう、あっ、んっ。

あは。嬉しいですか？

穂乃果ちゃんの恨みが籠った、おまんこピストン。

弱いおちんちん締めあげられ、容赦なく犯されて…。

あっ、ふう。

私の先輩への憎しみとか、ちゃんと感じます？

んっ、あっ、はぁ、はぁ。

あっ、んっ、ふう、はぁ。

…ふふ。ホントに嬉しそうですねえ。

トロトロのお顔で、私にしがみついて……。

倒錯し切った性癖、気持ち悪いです。

んっ、あっ、あっ、はぁ。

あっ、んっ、ふう、はぁ。

ばーかばーか。ホント馬鹿ですよ。

バカで愚かな先輩は、

そうやっておまんこの気持ち良さに頭真っ白になって、

お口半開きで悶えてるのが、お似合いですよ。

あっ、んっ、んっ、んっ。

んっ、あっ、はぁ、はぁ。

ほら。もつと喘いでいいんですよ。
情けなくて恥ずかしい姿、
大好きな女の子に、しっかり嘲笑して貰いましょうね。
あはは。

んっ、んっ、あっ、あっ。
はあ、はあ、んっ、んっ。

【耳舐め20秒】

んー…？

おやおや。

もう出てしまうんですか？

んっ、あっ。はあ、はあ。

ふふ。馬鹿で性癖終わってるうえ、よわよわなおちんちん。
良いとこ無いですねえ、本当に。

んっ、んっ、ふう、はあ。
はあ、はあ、あっ、んっ。

良いですよ。このまま私のおまんこに負けて、
びゅーびゅーお漏らし、してください。
んっ、はあ。

そうすれば私の恨みも、少しだけ晴れるかも、しれませんが…。
出来るだけ情けなく、お射精してくださいね。

【位置…次の喘ぎ、正面5センチへ移動しながら】

【ここから、ペースアップ、全力で喘ぐ】

あっ、んっ、はぁ、はぁ。
ん、ん、はぁ、はぁ。

おちんちん気持ちいいですね。先輩。
私に組み伏せられて、騎乗位で犯されて。
逃げ場のないままよわよわおちんちんが、
どどんお射精まで、追い込まれちゃいますね。あはは。

ん、あ、はぁ、はぁ。
あ、ん、ん、ふう。

【深めのキス20秒】

はぁ、はぁ、ん、ん。

あは。おちんちんもうダメそうですね。
私のおまんこに負けて、びゅーびゅーお漏らし。
もう限界のようで…。

ん、あ、あ、あ。
はぁ、はぁ、ん、ん…。

先輩。射精するならちゃんと、
おまんこの奥で射精してくださいね。

ん、あ、ん、ふう。

こぼしたら、制服汚がれてしまいますから。
おちんちんの先っぽを私の子宮口に押し当てて、
精液全部、峰岸穂乃果の赤ちゃんのお部屋に、
びゅるるゝって、注いで下さい。

【位置…次の喘ぎ、右耳側5センチへ移動しながら】

ん、ん、あ、あ、
あ、ん、ん、はあ。
はあ、はあ、ふう、ふう。
ん、ん、あ、はあ…。

…ほら。

もう出ますね。負けちゃいますね。
おバカでよわなおちんちん、お漏らしの時間ですね。

ん、ん、はあ、はあ。

イクイクイク。
出る出る出る。

いけ。いけ。出せ。出せ。

ん、んあっ…。

【位置…右耳側0センチ】

【ここから囁き（有声音）】

ええ。中出しどーぞ。先輩。

【ピストン終了】

びゅー。びゅー。びゅー…っ。

【次の二行、ヒロインも絶頂】

んっ、んあっ…！ あっ…。
イツ…く…！ あ…。

【次の二行、絶頂の余韻で息を整える感じ】

はあ…。はあ…。はあ…。はあ…。
ふう…。ふう…。はあ…………。

【おもむろに耳舐め、20秒】

【次のセリフから、いつもの平然とした感じで】

どうですか？ 出し終わったのでしょうか？

【囁き終了】

【位置…正面5センチ】

ふふ。そのようですね。お疲れ様でした。

【優しめのキス20秒】

ん…？

ええ、そうですよ。私もイキました。

というか最近、

先輩に中出しされると条件反射でおまんこが痙攣して、
絶頂するようになってしまいました。

どうしても一緒にイってしまいうんですよ。

…まあ。なんだかんだ言いつつ、

私のおまんこは先輩おちんちにゾッコンですからねえ。
精液を頂けると、喜んでしまうという事でしょう。

良かったですね、先輩。

あなたのよわよわおちんちんでも、

私のおまんこであれば、ちゃんとイかせる事が出来るという事です。
ふふふ。

【位置…正面30センチ】

…さて。

とりあえずシャワーでも浴びて、お昼ご飯でも食べますか？

ええ。

手作りしてあげますから、食べさせ合いっこしましょう。

…今日は午前授業でしたけど、

明日からは本格的に学校が始まって、

先輩といられる時間も減ってしまいますからねえ。

出来るだけイチャイチャしておきたいものです。ふふふ。

トラック4…添い寝えっち

場所…夜の先輩の部屋

【位置…正面30センチ】

こんばんわです。先輩。

ええ。先輩と一緒に寝るために。
今日も参上いたしました。

というか私、毎晩来ると宣言しましたよねえ。
毎回そうやって、

「また来たのかー」みたいな反応、しないで頂けます？

雨が降ってたから？

それはそれは、見くびられたモノです。

ほら。

明日も学校ですし、さっさと寝ましょう？
布団、失礼しますね。先輩。

【位置…右耳側15センチ】

【ここから、添い寝してます】

すう…。ふう…。

ふふ。温かい。

やはり隣に先輩がいると、落ち着きます。

ん…？

私の体、冷たいですか？

ふふ。すいません。

雨の中歩いてきたモノで、
少し冷えてしまったみたいです。

いえ。タオルはいりませんよ。

そんなに濡れている訳ではありませんし。
それより今の私に必要なのは、

先輩の体温ではないでしょうか。

…ほら先輩。こっち、向いてください。

【位置…正面5センチ】

このままもっと、強く抱きしめて。
私の体、温めて下さいよ。

【位置…次のぎゅーうで、左耳側0センチへ移動】

ぎゅーう。

【ここから囁き（有声音）】

ん…。ふう……。ん。

そう。いい感じですねえ。

こうしていればちゃんと、私の体、温まります。

ふふ。逆に先輩は私のひんやりとした体で、

肌寒く感じるかもしれません…。

まあ、大好きな私と密着できるので、
それくらい我慢して下さいましょう。

ええ。

二人で体温を、分かち合いましょね。先輩。ふふふ。

すう……。ふう……。
すう……。ふう……。 (呼吸音2回)

……。

【次の四行、無声音】

ねえ先輩。

えっち、しませんか？

そう、今からです。

なんというか、そんな気分になってきてしまひまして。

【ここからまた、有声音に】

…おや。ダメですか？

ふむ、確かに。

ご家族に私が忍び込んでいることがバレたら、面倒ですもんねえ。

私も変な印象を先輩の親に持たれて、
結婚の挨拶などでひと悶着あると困りますし…。
バレるのは確かに、避けたいところです。

ええ。分かりましたよ先輩。
それなら仕方ありません。

【囁き終了】

【位置…次のセリフ、正面5センチへ移動しながら】

仕方がありませんから……。

バレないように声を潜めて。えっちしないと行けませんね。

……あは。

しないと言う選択肢は無いですよ？
そんな理性的な判断をする程、
私はマトモな人間ではありません。

はいはい。そんなことを言っても。
どうせ私にされるがまま、
抵抗せずに脱がされるのでしょうか？

ほら。おちんちん出しましょうね。先輩。

【位置…正面30センチ】

【次の一行、服を脱がす】

ん……。ん、しょ……。

ふふ。やはり抵抗しませんか。
おちんちんもしっかり勃起していますし……。
扱いやすくて助かります。

それでは私も、下を脱いで……。

んっ……。…ふう。

【位置…左耳側0センチ】

【ここから囁き、有声音】

このまま添い寝の体勢で、挿入しますね。

【次の一行、声を抑えながら挿入】

んっ……。んあっ……。あっ……。
ふう……。

【ここから、少し息が上がってる感じ】

……ふふ。入りました。

おちんちん、熱いですねえ。

体が冷えているせいか、いつも以上に熱を感じて、良い感じです。

【次の一行、先輩と抱き合う体勢を模索する感じの喘ぎ】

ん……。ふ……。はあ……。

…しかし。息を潜めてのえっち。ですか。
いざやろうと思うと、少々難しい気がしますね。

特にほら。

先輩のおちんちんはよわよわですから。
腰をパンパンしたら、
すぐ女の子みたいにヨガってしまうでしょうし…。

ふふ。そんなことないですか？
変なところで強がりますね。

…では。試してみましようか。
こうして腰を、押しつけるように……。

【ここからゆっくりピストン。抑え目の喘ぎで。】

んっ…。ふう…。はぁ…。はぁ…。
あっ…。んっ…。ふう…。ふう…。

ほら。やはり、ダメじゃないですか。

んっ…。ふう…。

そんな高い声出して。
バレちゃいますよ？ 真面目に。

あっ…。んっ…。はぁ…。はぁ…。

いつもと体位が違うから。とか、下らない言い訳ですね。
ん……。ふう…。

先輩のおちんちんが、相も変わらず、弱すぎるんですよ……。
まったく…。

んっ…。はぁ…。はぁ…。ふう……………。

……。

【ピストン終了】

【位置…正面5センチ】

…まあ、いっそのことアレですね。
このままピストンせず、寝ちゃいましょうか。

そう。

こうしておちんちんとおまんこが、ずっぷり繋がった状態で、
腰を振らずに眠りにつく…。

それなら先輩も、あんあん恥ずかしい声を、
この家に響かせずに済むでしょう？

ええ。私はそれで構いませんよ。

いえ。本音を言えば、
ピストンをして気持ちよくなりたかったのですが……。
一晩中先輩におちんちんをハメて貰えると言うのは、
それはそれで魅力的な話ですから、妥協案として満足してあげます。

ふふ。

それではこのまま。

私のおまんこを、先輩のおちんちんケースにして。
眠りにつくとしましようか。

【位置…左耳側0センチ】

【ここから囁き。(有声音)】

おやすみなさいです。先輩。

【ここから。寝息に時々、

かすかな喘ぎ声を混ぜていく感じですよ。】

すう……。ふう……。

すう……。ふう……。

ん……。あ……。

はあ……。ふう……。

はい…？　なんです？

腰が動いてますか？　私。

…ふふ。ワザとじゃないですよ。
無意識です。

仕方無いじゃないですか。

毎日えっちしているせいで、

先輩のおちんちんをハメていると、

おまんこが条件反射で、

自然とすりすりしてしまうんですよ。

ん……。ふう……。

……別に。これくらいの弱い刺激なら、

流石の先輩も声を出さずにいられるでしょう？

むしろ少しぬふぬふしていた方が、おちんちん萎えなくて、ハメたまま寝やすいかと思います。

すう……。ふう……。

すう……。ふう……。

ん……。はあ……。

ふう……。

ふふ。眠れないと言われましても……。

無意識に動いてしまうモノは、どうしようもありませんねえ。それに先輩だって、腰をあへこしてるじゃないですか。

してますよ？

ほら。へこ。へこ……。

んっ……あっ……。ふう……。

…私が動くから？

おやおや。責任転嫁しないで下さいよ。

先輩も、勝手に腰が動いてしまうくらい。

私とのえっちに落ち切っているんです。

素直に認めましょうね。ふふふ。

すう……。ふう……。
はあ……。ふう……。
ん……。あ……。
すう……。ふう……。

……先輩。眠れないのは、意識の問題ですよ。
「セックスしてる」と、強く意識するから、
興奮して目が冴えるんです。

「おちんちんが私のおまんこにぬふぬふされているのは、
当たり前」。
そう思ってリラックスすれば、ちゃんと眠れますよ。

「なんだかおちんちん気持ちいいなー」と。
その程度の認識で、体の力を抜くんです。

ほら。リラックスですよ。
先輩はおバカさんなんですから、
頭を空っぽにするのは得意でしょう？
私に身を委ねて下さい。先輩…。

すう……。ふう……。
ん……。ふう……。

【「ここから、喘ぎも無しで、普通の添い寝のつもりで」】

すう……。ふう……。
すう……。ふう……。

ふふ。そうそう。そんな感じですよ。
やれば出来るじゃないですか。

おちんちん、気持ちいいですね。

脱力した体に、おまんこの快感が流し込まれて、
全身がとろけちゃいますね。

どんどん頭がぼーっとして……。

ただ純粹に、私の感触だけを、感じますね。

すう……。ふう……。

すう……。ふう……。

…私も。

いつの間にか体が温まって、もう気持ち良いだけです。
気持ちよく、全身がトロけて。

先輩だけを、感じてます。

すう……。ふう……。

すう……。ふう……。

溶け合いましょう？

溶け合って、安心の中。

一緒に眠りにつきましようよ。先輩……。

すう……。ふう……。

すう……。ふう……。

すう……。ふう……。

すう……。ふう……。

……。

ふふ。

…ねえ先輩。

このまま一晩中、生ハメし続けたら……。

私のおまんこ、完全に先輩おちんちんの形に、なってしまいますね。

峰岸穂乃果（みねぎし ほのか）ちゃんのおまんこ、

このおちんちんに押し広げられたまま、

何時間も放置される訳ですから。

明日の朝には先輩おちんちん専用の、トロトロ生オナホへと、
調教されていることでしょう。

ほら。こうしてる今も、

どんどん私のおまんこ、拡張されてますよー…。

先輩おちんちんで、ぬちゅぬちゅ。みちみち…。と…。

【囁き終了】

【位置…左耳側5センチ】

【次の2行は、先輩おちんちんが反応したことに対する喘ぎです】

んっ……。んあっ……。あっ…！

はあ…。ふう……。

【位置…正面5センチ】

ふふ。おちんちんビクビクさせ過ぎですよ？ 先輩。

頭の悪い言い回しが好みなのは知っていますが、
きちんとリラックスして下さい。

そんな風では寝れないでしょう？
まったく…。

んっ……。ふう…………。

…おやおや。

「なら変なことを囁くな」とは。
またしても責任転嫁でしょうか？

せっかく先輩が喜ぶかと思い、
眩暈がするような頭の悪い言葉を並べて差しあげたというのに……。
私の献身も浮かばれませんねえ。ふふふ。

SE…再度抱きつく

【位置…左耳側0センチ】

【ここから囁き。(有声音)】

【ここからもまた、喘がず、普通に添い寝するつもりで。】

すう……。ふう……。
すう……。ふう……。
すう……。ふう……。
すう……。ふう……。

…まあ実際のところ。
既に私のおまんこは、すっかり先輩おちんちんの形に、
なってるんですけどね。

すう……。ふう……。

ええ。それはもう。

毎日いっぱい生ハメして、中出しされてますから。
このおまんこは既に、先輩おちんちんがピッタリハマる、
トロトロ先輩用オナホールです。

…ふふ。

下腹部に、マジックで名前でも、書いておいて欲しいモノですねえ。

いつか私、先輩を置いてまた1人で、どこかへ行ってしまいかもしれませんし。

このおまんこ、探しやすいようにしておいた方が便利かと。ふふふ。

すう……。ふう……。

すう……。ふう……。

洒落になってない。

今のが洒落に聞こえたんですか？

名前、書いて欲しんですけど。

すう……。ふう……。

…ダメですか。
ばーかばーか…。

すう……。ふう……。

すう……。ふう……。

すう……。ふう……。

すう……。ふう……。

【ここから、眠そうな感じで】

……先輩。そろそろ私、眠くなってきました。

やはり先輩のおちんちん…、安心します。

すう……。ふう……。

すう……。ふう……。

すう……。ふう……。

ん……？ なんですか？

出る……？

出るって、何でしょう……？

射精……？

いやいや……。ご冗談を……。

この程度では……。流石に……。

【囁き終了】

【位置…左耳側5センチ】

【寝耳に水で、少し焦った様子で反応して、

そのまま声を我慢しながら絶頂】

って、あつ、ちよ、先輩ダメっ……！

イクッ……！！

んっ……。んあっ……。あっ……！

んっ、あっ……。……！（絶頂）

はあ……。ふう……。はあ……。はあ……。

…あの、先輩、突然射精しないで下さい。

危うく大きな声が出てしまうところでした。

私、先輩に射精されるとおまんこが勝手に痙攣絶頂してしまうと、
申し上げましたよね。ですから……

へ？

もうちょい出るって、ちよ、まつ……。

【位置…左耳側0センチ】

【ここから囁き。(有声音)】

【ここも、声を我慢しての絶頂】

んっ、んあっ……!!

だっ……めっ……ですって……!!

んあっ……!

はぁ……。はぁ……。はぁ……。ふう……。

……。

【囁き終了】

【位置…正面5センチ】

…出し切りましたか？

まったく、こんな低刺激なおちんちんぬぶぬぶで射精するとは。流石に驚きです。

いえ、言い訳はいりません。

どうせ先輩のおちんちんが弱すぎるのが主要因ですからね。

はぁ……。 (溜息)

……まあ良いです。

先輩も射精した分、いくらか眠気が出て来るでしょうし、このまま改めて、眠りにつきますよ。

抜くわけ無いでしょう？

ちゃんと予定通り、ハメたまま寝て下さい。

【位置…左耳側0センチ】

【ここから囁き。(有声音)】

ほら。体の力を抜いて、リラックスですよ。
深く呼吸して、私を感じて、また溶け合ってください……。

すう……。ふう……。

すう……。ふう……。

【ここから、安心した様子で。】

ふふ。おちんちは萎え気味ですが、
先輩の精液を、お腹の中に感じます。

これはこれで落ち着くので、安眠は出来そうですね……。

すう……。ふう……。

すう……。ふう……。

…おやすみなさい、先輩。

トラック5…物思い。

場所…峰岸の教室

【位置…正面斜め右耳側50センチ】

あ、先輩。

ふふ。入って良いですよ。

もう教室には、私だけですし。

【位置…正面50センチ】

しかし。

教室まで迎えに来て頂けるとは、中々過保護ですねえ。

遅かったから？

すいません。物思いにふけていました。

帰る準備、しますね。

SE…教科書をまとめる音

…別に。悩み事ではありません。

ただ、いなくなってしまうた私の隣の子について、

あれこれ思いをはせていました。

…いえ。この表現も大仰（おおぎよう）ですね。

ただぼーっと、この空っぽの席を眺めていただけです。

【演技…ここから、少し遠くを見るような感じで】

……あのですね先輩。

この席の、向こう側から帰って来なかった子……。

渡辺（わたなべ）さんって言う、女の子なんですけど……。

話に聞く限り、
どうも随分と、孤立していた子だったんですよ。

友達がいなくて。

家族仲も、悪かったらしくて。

成績も、お世辞にも良いとは言えなくて…。

向こう側へ呼ばれる程に精神を病んでいたと言うのも、
成程そうだろうなと思うほどに、

彼女はこの学校で、独りぼっちの子だったんです。

……。

【ここから、少し遠くを見るように】

それでね、先輩。

そんな子だったからか、

クラスの誰も、渡辺さんが居なくなっただ事を、
あまり悲しんでいないみたいなんですよ。

当初はみんな、驚き騒ぎ立てこそしましたが、
春休み明けから数日たった今の時点で、
もはや誰も、彼女の消息を心配するようなそぶりは見せなくて……。

「いないならいいで良いかー」って、
そんなクラスの意識が、垣間見えるんです。

【次の4行、少し寂しそうに】

……。

…そして。

そんなクラスの雰囲気、
少なからず安堵している自分がいます。

渡辺さんの喪失が、ささいなことなんじゃ無いかと、
自己を肯定している自分が……。

【ここから、自嘲気味に】

ふふ。いやはや。

相変わらず私は最低ですねえ。

【演技…ここから、自分に言い聞かせるように】

もっと思ひ詰めなければいけません。

もっと罪悪感を感じていなければいけません。

私はもっと、気を病んでいなければいけないハズなんです。
もっと。もっと……！

【先輩に強く肩を抱かれる】

【位置…正面5センチ】

…あは。なんですか？ 突然肩を抱いて。

キスしようとしてます？

この前教えましたからねえ。

……。

困った顔して…。

私みたいな子を好きになるから、
そんな面倒な感情を抱えることになるんですよ？
ホント、おバカさんなんですから。

【次のセリフ、素直な少女みtainな感じで読む】

ん。お口開けます。

結局キスするんですねえ。ふふふ。

【深めのキス20秒】

……はい。

帰りましようか、先輩。

トラック6…USB

場所…先輩の布団

【位置…右耳側15センチ】

【演技…オナニーしている。】

んっ……。んあっ……。あっ……。んっ……。
きもちい……。
んんっ……。んっ……。ふう……。

おや、先輩。

んっ…。はあ…。

おはようございます。

はあ……。はあ……。

いや、見て分かるでしょう？
んっ…。あっ…。
オナニー、してるんですよ。

んっ……。ふう……。あっ……。ふう……。

先輩の寝顔見ながら、一人えっち……。
あっ…。んっ…。

おまんこ、気持ちいいです。

はあ……。はあ……。んっ……。あっ……。

【位置…次のセリフ、正面5センチへ移動しながら】

ふふ。

ねえ先輩。

起きたのでしたら、好きって言うてくれませんか？

んっ……。ふう……。

そろそろ私、イキそうなので、先輩に好きって言われながら、絶頂したいんです。

んっ……。あっ……。ふう……。ふう……。

ほら。言っして下さいよ。

穂乃果、好きだよって。

んっ……。ふう……。

言って？ 好きでしょ？ せんばい……。

【次の喘ぎの二行目は、

先輩に好きと言われて少し強く喘いだ様子。】

んっ……。ふう……。あっ……。はあ……。

んあっ……！ んっ……。あっ、はあ……。

ふへへ。嬉しいです。

やはり先輩に告白されると、おまんこ高鳴りますねえ。

んっ、あっ……。ふう……。

…そのまま、続けてください。

んっ……。んんっ……。

はあ……。はあ……。

【位置…次の喘ぎ、左耳側5センチへ移動しながら】

あっ……。んっ……。

んあっ……！ ふう……。

先輩っ。もう、イキます…。
私のおまんこ、イっちゃいます。
はあ……。はあ……。んっ、んっ。

【ここから、少し声を抑えた感じの絶頂】

あ、ダメ。せんぱいつ……。
イク。イク。
せんぱ、イつつく……。！
んっ……。！（絶頂）

はあ……。はあ……。はあ……。ふう……。

ふふ。気持ちいい……。
寝顔もいいですが、
やはり起きてる先輩をオカズにする方が、
捗りますねえ。ふふふ。

【位置…正面30センチ】

ん？

おや。「朝っぱらから」とは。
何を言ってるんでしょうか。この先輩は。

いえ。どうやら勘違いをしているなど。

別に私、朝からオナニーをしていた訳ではありませんよ。
昨日の夜から、してたんです。

ええ。つまり徹夜ということですね。
私は今日、夜通しずーっと、
寝ている先輩の横で一人えっちをしてました。

おや。なんですかねえ？ その目は。
呆れてます？

別に良いじゃ無いですか。
そもそも私が沢山オナニーをする人間だと言うことは、
前もお話したハズです。

…私ね先輩。

最近は更に、オナニーの頻度が増えてしましまして。
家で一人でいる時間は、ずっと自分を慰めてるんですよ。

先輩が座っていた椅子に座って、
クリトリスと乳首を弄ったり…。
先輩とえっちした布団にくるまって、
抱き枕にお股をこすり付けたり。
本当に誇張なくずーっと、自慰行為にふけています。

ああそれから……。
今日のように寝ている先輩の横でオナニーをするのも、
実はほぼ毎日のことですよ。

お馬鹿な先輩は気づいていなかったようですが、
先輩が寝たあとはいつも隣で、
声を潜めて一人えっちしてました。
徹夜したのは、流石に今回が初めてですけどね。ふふふ…。

あは。別に大丈夫ですよ。
家事も回っていますし、勉強もついていけています。

先輩だって余暇の時間、ゲームしたり、漫画を読んだりするでしょう？

私の場合はそれが、全て先輩での自慰行為の時間になっていると、それだけの事です。

趣味…。そう、打ち込んでいる趣味なんですよ。ふふふ。

…それに先輩。

私がこれだけオナニーをするのは、先輩のためでもあるんですよ？

…ええ。

本当は私、この性欲を全て先輩にぶつけて、日に数十回くらいセックスする生活をしたいんです。

ですがそんな事をしたら、先輩のよわ過ぎおちんちんは搾り尽くされ、ミイラになってしまうでしょう？

ですから私は先輩のザコおちんちんを守るため、泣く泣く一人えっちで、性欲を解消している訳です。

いやはや。我ながら献身的な後輩ですねえ。感謝して下さいよう、ホント。ふふふ。

…ところで先輩。オナニーといえば、ですけど。

以前私、あなたに私のオナニー音声が入ったUSBを、差し上げましたよね。

そうそう。計百時間分くらいの。

お尋ねしたいのですが、先輩。
あの音声、どれくらい聴きましたか？
そろそろ半分くらいは、聴き終わったところでしょいか。

…おや。全く？

全く、聴いていないのですか？

ふふ。いえいえ。構いませんよ。
なんとなく予想してました。

先輩おちんちん不足でずっとオナニーしてる私と違って、
先輩は現状の、一日に数回中出しえっちする程度の生活で、
満足してらっしゃいますもんね。

供給が足りてる以上、
私のオナニー音声に手を伸ばすことはないでしょう。

いやはや、
ちよっとぴゅっぴゅっただけで満たされてしまうなんて。
よわよわおちんちんも、
多少はメリットがあるモノですねえ。
その点だけは羨ましい限りです。ホント。

【位置…次の1行、正面50センチへ遠ざかりながら】

まあそれはそれとして…。

はい先輩、このUSB、受け取ってください。

ん？

いえ。

新しい私のオナニー音声、百時間分です。

持て余す？

ふふ、別にコレも、聴かずに放置して頂いて構いませんよ。
本音を言えば聴いて欲しいですが……。

それ以上に、先輩にただ、持っていて欲しいんです。

どうぞ？

私のオナニー音声、これで二百時間ですね。

……。

んー……？ ふふふ。

【位置…左耳側5センチ】

【ここからのセリフ、少しだけヤンデレっぽく】

あのですねえ、先輩。

私が先輩にこの音声を持っていて欲しいのは、
もしもの時、コレが呪いになるからですよ。

そう、呪い。

今後もし。

何らかの事情で、私が先輩の前から消えてしまったら。

私のことが大好きな先輩はきっと、
私を求めてこの音声に縋り付いて、毎日コレを聴きながら、
おちんちんシコシコする生活に陥るでしょう？

その時このオナニー音声は、私の幻影に先輩を縛りつける、
まごう事なき呪いの品になる訳です。

【位置…正面30センチ】

あは。想像しただけでとても楽しいですねえ。

コレからも定期的に、私のオナニー音声は差し上げますから、都度保管して下さい。ふふふ。

おやおや。

私、基本的に滅多な事しか言いませんよ？

忘れちゃいましたか？

相変わらずおバカな先輩です。

トラック7…オナニー観賞手コキ

場所…先輩の布団

【位置…正面50センチ】

さて。とは言えせっかくですし、
今からは、新しい私のオナニー音声を聴きながら、
えっちしましょうか。

ええ。今からですよ？

せっかくのお休みですし。

先輩のご家族は既に外出されて、この家には私たちだけですし……、
最適なタイミングじゃないですか。

【位置…右耳側15センチ】

ほら。私のスマホに既に、聴かせたい音声は入れてありますから。
イヤホン分けて、一緒に聴きましょう？

【次の二行は少し棒読みで。】

いやーん。恥ずかしいですねえ。
一人えっちを聴かれてしまうなんて…。ふふふ。

【位置…次の「んしょ」で、正面斜め右耳側5センチへ移動】

んしょ…。

反対側のお耳、失礼しますね…。

SE…左耳にイヤホンがはめられる。

【位置…右耳側5センチ】

はい。それでは流します。
再生…っと。

（オナニー音声が始める。）

…ふむ。しっかりオナニーしてますね。私。

「先輩先輩」と、甘い声を出して。気持ちよさそうです。

ふふ。このオナニー音声はですね。

つい昨日のモノなんですよ。

ええ。

昨日の放課後。先輩が帰宅してしまって、
自宅で一人になった私がしている、オナニーです。

えーっと、昨日は大体、5時間くらい、ですかね。

はい。5時間ぶっ続けで、このようにオナニーをしました。

…というのも、5時間経つと、ほら。

先輩のうちへ忍び込んで、先輩と一緒に寝る時間、ですからね。
強制的に一度、中断しなければいけないですよ。ふふふ。

ん？ 家事ですか？

普通にオナニーしながら、こなしてますよ。

というか今だって…。

（音声にフライパンの音が混ざる）

あ、ほら。

丁度私の喘ぎ声に混ざって、

フライパンの音が聞こえて来たでしょう？

今私は、先輩のおちんちんと同じサイズのバイブを、
おまんこに突っ込んだ状態で、

オナニーしながら夕飯を作ってるんです。

【ここで、音声の方で、「先輩イタズラしないで下さいよ」
みたいなセリフが入る】

…とまあ。

こんな妄想をしながら、フライパンを炒めている訳ですね。

これ以外にも、炊事洗濯お風呂から学校の課題まで、
基本的には全て、オナニーしながらこなしてますよ。

【演技…ここから少し寂しそうに。】

…というか逆に。

こうやって先輩とのえっちを妄想していないと、
家事なんかやってられないんですよ。

私のような人間は、すぐ自分のことなんてどうでも良くなって、
セルフネグレスト。してしまいますから……。

先輩と住んでいる妄想をして、先輩のために家事をする。
これがキッチンと生活するための、ライフハックなんです。

…一人暮らし。望んでしてる訳じゃないんですから。

……。

【演技もとに】

ふふ。話がそれました。

さて先輩。穂乃果ちゃんのえっちな声を聴きながら、
おちんちん気持ちよくなりたいでしょう？
手コキ、してあげますね。

SE…ズボンを脱がして手コキ開始。

しこしこ。しこしこ…。

…それから。少し音声を飛ばしましょう。
ちゃんとこの音声の中で、
一番えっちな部分を、聞かせてあげます。ふふふ。

SE…音声を飛ばす。

【位置…右耳側0センチ】

【ここから囁き（有声音）】

どうですか？ このあたり。

私の喘ぎ声、非常に激しいでしょう？
結構アレなオナニーをしていますからねえ。

ええ。

というのもコレは、スマホで先輩と、
メッセージのやり取りをしている最中の、オナニーなんです。

そう。昨日の八時くらいに、私と、雑談してたでしょう？
あの時私、こんな風にあんあん喘ぎながら、
文字を打っていたと言う訳ですね。

あ。ちなみにこのオナニーは指でしてます。
おまんこに中指を出し入れしながら、親指でクリトリスを弄って…。
あと、確か乳首も、もう片方の手でクニクニしてました。

【囁き終了】

【位置…右耳側5センチ】

【次の二行目、突然激しめに喘ぐ】

えーっと…。

んっ。んあっ…！ あっ！ んんっ…。

ふう……。

【喘ぐの終了】

ええ、そうですね。

実際やってみると、同じような喘ぎ声を出してしまいます。

【位置…右耳側0センチ】

【ここから囁き（有声音）】

ふふ。あのですね先輩。

今私がしてるこのオナニーには、ルールがあるんですよ。

先輩からメッセージが送られてきたら、
都度おまんこがイってからしか、返信しちやいけないっていう。
そういうルール。

ですから…。

（オナニー音声の方で、

3つメッセージが送られて来たというセリフが入る。）

そう、こんな風に。

先輩から連続でメッセージが送られてくると、
その数だけイかなきゃいけないくて、大変なんです。

ふふ。

私、頑張っておまんこくちゅくちゅしてますね。

喘ぎ声からも分かりますが、本当にキツイんですよ？　これ。

私の心情としては、すぐ先輩に返信したいんですけど、

おまんこイかないと返信出来ませんから、

こうして全力オナニーをするハメになるんです。

耳舐めしてますから、しばらく聞いていてください。

私が先輩の為に、おまんこイジメてる声。ふふふ。

【耳舐め20秒】

（三回イく前に、さらに先輩からメッセージが来てしまう）

あは。イキ地獄に陥ってますねえ。

おやおや、イってるおマンコを容赦なく攻め立てて、

先輩に返信したくて必死じゃないですか、私。ふふふ。

でも結構、嬉しいんですねえ。コレが。

自分で決めたルールですけど、

先輩にオナニーをコントロールされていると言うのが、

目の前に居なくとも、先輩と繋がっている気がして……。

少しだけ、さみしさが和らぐんです。ふふふ。

（音声の方で、一度絶頂を迎える。）

…あ。ですが一応、謝った方が良いですかね。

いえ。こんなことをしているせいで、

私からの返信が遅いときもあったでしょうから。

そのことについて謝罪をすべきかなと…。

おや。いつも早すぎるくらいですか。

まあ、先輩からメッセージが送られてきた時点で、私のおまんこは喜んで、簡単にイっちゃいますからねえ。

早く返信しようと全力オナニーしていることもあり、そんなにお時間を取ることは、確かに少ない気がします。

ふふ。では謝りません。今後もありますね。このオナニー。

なんですか？

ふふ。迷惑をかけていないのであれば、別にいいじゃ無いですか。

…さて。返信できるまで、あと2回イかないとですね。

私の健気な連続絶頂、一緒に見守りましょうか。

【耳舐め20秒】

おや。ようやく返信できたようで。

とはいえ先輩からメッセージが返ってくれば、

またすぐ全力オナニーですけどね。

やり取りしてる間はずーっと、これの繰り返しです。ふふふ。

…私ね。先輩。

このオナニーをいつもしているせいで、学校やバイト中など、普通に過ごしている時でも、スマホに先輩から連絡が入るたび、勝手におまんこがキューって、反応しちゃうようになったんですよ。

先輩からのメッセージと、性的快感が、結びついてしまった訳です。

ゆくゆくは私のおまんこ、先輩から連絡が来た瞬間、即イっちゃうようになるかもしれないねえ。

そうなればこのオナニーをしている時でも、すぐ先輩に返信できますし、個人的にはありがたいです。

【囁き、ここから無声音】

ですから先輩。

コレからもたくさん、

オナニー中の私と、連絡を取り合って下さいね。

私、おまんこにしっかりイキ癖がつくように、全力でおまんこぬちゅぬちゅして、潮吹きしながら返信、しますから。

私のおまんこ、先輩のスマホで操れる即イキまんこに、調教しちゃいましょう。ふふふ。

【囁き、有声音に戻る】

【耳舐め10秒（以下、引き続き耳舐めしながらセリフ）】

んちゅ…。ちゅ…。

おちんちん気持ちいいですねえ、先輩。

ちゅぷ…。ちゅ…。んちゅ…。

一人えっちでイキ悶える、私の声を聴きながら。

本人に手コキして貰うの、最高でしょう？

んちゅ…。ちゅ…。ちゅぱ。

ほら。また私、イクみたいですよ？

先輩のことであ、頭いっぱいになりながら…。

必死におまんこ弄ってえ……。

んちゅ…。ちゅ…。むちゅ…。

はい。イキました。

一体何度目の絶頂なのやら…。

んちゅ…。ちゅ…。ちゅぷ…。ちゅ。

んちゅ…。ちゅ…。ちゅぷ…。

いっぱい聞いてくださいね…。先輩。

んちゅ…。ちゅ…。ちゅぷ。

私に連絡する時、つい思い出してしまいうくらい。

この喘ぎ声、お耳とおちんちんに、刻んでください。ふふふ。

んちゅ…。ちゅ…。ちゅぷ…。

【引き続き、耳舐め10秒】

【囁き終了】

【位置…右耳側5センチ】

……ん？

おや。そろそろ先輩も、イっちゃいそうですか？

ふふ。良いですよ。

おちんちん限界なら、どうぞ出して下さい。

では、音声の中の私の、次の絶頂に合わせて、
射精させてあげますね。

(手コキ終了)

【位置…正面斜め右耳側5センチ】

【次の一行で、おちんちんを挿入したあと、
激しめのピストン開始】

んっ…。んあっ…。んっ……………！

んっ。んっ。んっ。んっ。

あっ。あっ。あっ。あっ。

【位置…次の、ふう、はあ。で、右耳側5センチへ戻る】

ふう、はあ。

…そうですよ。射精する時は、中出し、です。
当たり前じゃ無いですか。

んっ、あっ、あっ、あっ。

ほら。このまま射精すれば、両側から私のイキ声聞きながら、
射精できますよ。

イって。イって。先輩。イけ。

さーん。

にーいっ。

いちっ！

【次の2行で絶頂】

んっ、んあっ！ あっ！

いくっ。いくっ……………！！ あ……………。(絶頂)

ふう……。はあ……。はあ……。はあ……。

……。

【位置…正面斜め右耳側5センチ】

ん……。んしょ……。(イヤホンを外す。)

【位置…正面5センチ】

どうですか？

気持ちよく中出し、出来てます？

締め付け強い？

ふふ。そりゃあ先輩の事を思って、徹夜でオナニーしたあとのおまんこですからね。

それこそ、今聞いた音声の通りに。

ずーっと先輩おちんちんを待ち望んでいた、おまんこです。

ふふ。いっぱい搾ってあげますね。

【深めのキス20秒】

ふう……。

それにしても、やはり全然違いますね。

いえ。

オナニーより、先輩おちんちんの方が何倍も気持ちいなど。

私のオナニー、イキまくっているように見えて、

実は浅くしかイけてないんですよ。

先輩のおちんちんじゃないと物足りなくて、仕方ないんです。

【位置…右耳側5センチ】

という訳で、先輩。

徹夜した私は、今から寝ますから、眠りに落ちるまでは、おちんちんハメたままでお願いします。

ああ、それから。

一応先輩が起きる前に、家事全般をして、朝ごはんを作っておきましたから。

私が寝たら、

それを食べながらダラダラ過ごすと良いですよ。

ええ。どういたしまして。

そんなに長く寝る気はありませんから、三時間くらいしたら、無理矢理にでもたたき起こしてくださいね。そしてらまた、えっちしましょう。

休日ですし、今日は三回くらいはシたいですね。

ふふ。おやすみなさい。先輩。

【ここから、少し眠そうな感じで。】

すう……。ふう……。

すう……。ふう……。 (呼吸音2回)

…徹夜はちょっと、良く無いですね。起きてる先輩との時間が減ってしまったことを、今後悔してますよ。あはは。

トラック8…ほんの少しの進展

場所…放課後の教室

【演技…ここは少し、透明感のある感じの声で演じて欲しい】

【位置…正面斜め右耳側50センチ】

あ。先輩。

…すみません。

また教室まで、迎えに来させてしまいましたね。

入って良いですよ。

こっち、来てください。

【位置…正面50センチ】

先輩。帰る前に少し、お話をしませんか？

ええ。というのも…。ほら。

…見ての通りです。

私の席、場所が変わったんですよ。

今日の帰りのホームルームで、急遽席替えとなりました。

最後列、三つ机を繋げた端っこの、この席が。

私の新しいポジションになりました。

そして、この席替えがされた理由ですけど……。。

私の隣だった行方不明の子。

渡辺さんの席を、撤去することになったからです。

私だけ隣がないコト、とか。
クラスの雰囲気とか。

そういう事を加味して、
無くした方が良いという判断に、なったそうで…。

もちろん渡辺さんが戻って来た場合は、
席を元に戻すらしいですが…。

…まあ。帰ってこない事は。

先生もなんとなく、察している感じでしたね。

…ですから。

【次の二行は、しみじみと言う感じで】

もう私は、隣の空っぽの席を見て、
心臓を掴まれるような感覚を、感じなくて済む訳です。

すう…。ふう…。(呼吸音1回)

……。

【演技…次の2行。少し、遠くを見るような雰囲気。
マジメなトーン】

…ねえ。先輩。

このままで、いいんでしょうか。

【次の三行は、また先輩の方へ投げるセリフ】

…いえ。

渡辺さんの席の事では無く。
私のことについて。ですよ。

【ここから、半分自分に言い聞かせるような暗いトーンで】

私。このままではあの行方不明事件の事を、
忘れてしまうかもしれません。

ニュースもどんどん、あの事件を取り上げなくなってきてますし。
クラスメイトも、最近は全く、話題に出さなくなりました。

そんな中、
私の隣の席すら、空っぽで無くなってしまったとあれば……。

最低な私はいよいよ、穏やかな日常に流されて。
自身が咎人である自覚を、
保てなくなってしまう気がするんです。

…最近家は帰っても、母の面影をあまり感じません。
先輩との記憶ばかり、呼び起こしてしまう自分がいます…。

（先輩に「それでいいじゃないか」と言われる）

【ここから、すこーしだけ、

自分に対する怒りを滲ませながら】

良くないですよ。
あの事件のコトを忘れたら、
私は先輩という資格がありません。

【ここから、切々と訴えるように】

…先輩。私ね。

あなたと付き合っていることに、ずっと負い目を感じてるんです。

あんな事件を引き起こしておいて、

それでもものうのうと、大好きな恋人と一緒に居る…。

そんな自分が、どうしても正当化できなくて。

幸せへ進む権利は、私には無いハズなんですよ。

【ここから弱弱しく。】

だから。

先輩とこれからも一緒に居るためには、

私は不幸でなければいけないと、そう思いました。

恋人といっても一向に幸せになれず、

病んでいて、不幸な人生。

それが、このジレンマの中で自己を正当化できる、
ギリギリの妥協点で。

私は春休み明けから、そこを目指して自責を重ねて、
自分を追い込んできたんです…。

【少し自嘲気味に笑いながら】

ですが。

どうしてですかねえ。

渡辺さんの席は無くなりますし。

私の周りは、事件のコトを話さなくなりますし。

お陰様で自責をするのも不幸でいることも、

どんどん難しくなっていくます。

【次の二行は、さらに自嘲気味に。

三行目の「私は…」は、少し言葉に詰まる感じ】

それなのに依然として、

バカな先輩が私のそばにいるものですから。

私は…。…。私は。

【少しだけ涙を滲ませる感じのつぶやき。】

大罪人なのに幸せをつかむ。醜悪な存在に。

どんどんと、成り下がってしまふんです……。

【ここから、先輩をまっすぐ見つめる感じ。

同じくしいよわわしいトーンなのですが、

少しヤンデレっぽい圧が欲しい】

……ねえ先輩。どうしたらいいですか？

どうしたら。あなたと一緒にのまま。

適切な罰を受けて。生きていけますかね……？

……。

……ん？

【次の二行、独り言を言うようにつぶやく】

……諦めろ。ですか？

俺が幸せにするから……。

【ここから、少しトーンを落として、しみじみ呟くように。】

【少し軽蔑する感じも混ぜて欲しい】

はあ……。きもいですね……。相変わらず。

私は真剣に悩んでいるというのに。

こっちの心情なんか無視して、自分の結論を押し付けて来て……。

先輩はいつもそうです。

ホント、しょうもない……。

【ここから、いつもの調子に戻って】

はあ……。(溜息)

やめましょうか。

いえ。思い出したんです。

前回の事件の時も、こうして先輩に包み隠さず話したせいで。

滅茶苦茶なパワープレイで台無しにされたんです。

だから、この話はもうしません。

全く油断なりませんねえ。

そうやって、「話を聴こうか。」

みたいな態度を取って、自分の思うようにことを運ぼうとする……。

基本的に先輩ラブな私も、

そういうところは嫌いですし、恨んでるんですよ。

【位置…正面斜め右耳側50センチ】

ほら。帰りましょう？

【ここから、少しだけ吹っ切れたように、明るく】

それから忠告ですけど、

私のような七面倒な女の子を、

そう簡単に幸せに出来ると思わないことですねえ。

時間はたっぷりある？

そうですね、先輩のせいで。

まあ、それならせいぜい私に振り回されて、
死ぬまで苦勞すると良いですよ。

棺桶の中でいっぱい後悔する先輩が、今から楽しみです。
ばーか。ふふふ。

トラック9…酔いどれ百合想起えっち

場所…峰岸の家

【位置…正面50センチ】

……ねえ先輩。

先輩のご家族で、お酒を飲む人っています？

ああ、いえ。

先日バイト先のスーパーで、くじ引きがありました。
出来心で私も引いたのですが、

ビールのセットが当たってしまったんですよ。

ただ、私は当然飲めませんし……。

先輩にアテがあるのでしたら、引き取って頂こうかなと。

ほら。これです。

SE…ビールのセットを置く

…ふふ。そうですか。

ではよろしく願います。

ん……？

なんですか？

ビールと言えば？

ああ、そうですね。

向こう側に行った時の私、

酔っ払ったような状態になってましたね。

…可愛かった？

あは。何を言うかと思えば。

正気を失って危ない状態になっている私を可愛いなどと、よく言えたモノですねえ。

相変わらず先輩の性癖は、理解に苦しみます。

……。

そうだ先輩。

今日はエッチの前に、シャワーを浴びましょう。

いえ。

突然気温が上がったモノですから、学校から帰ってくる間に、汗をかいてしましまして。乙女心として、浴びたい気分なんです。

いえいえ。一緒じゃなくていいですよ。

先輩が先に浴びて下さい。

ふふ。

たまにはそういう気分の時もあるのですよ。

…待ってますね。先輩。ふふふ。

SE…場転（お風呂場）

【位置…左耳側50センチ】

【ここから、酔っ払った演技で。（超上機嫌）】

ふふふ。

ちゃんと体洗えてますかあ、せんぱい。

シャワーの温度とか、変えちゃって良いですからね。

あはゝ。そうですね。

私も来ちゃいました。えへへ。

一緒に入らないって言ったのは、方便ですー。
私が先輩との時間を減らすような選択、
する訳無いじゃ無いですかあゝ。あは。

……おや。様子がおかしいと？

ふふん。そうです。そうです。

お酒飲んだんです。

先輩の前だと止められそうなのでえ。

先輩を先にお風呂に入れて。

グイッと一缶。300ミリリットル。ふへへ。

んゝ…？ うるさいですねえ。

大人だの子供だの、些細なことですよお。

あーはいはい。

酒飲んでお風呂は危ないですよねゝ。

知ってます知ってます。

私先輩と違って、おバカじゃ無いですから。

いやいやゝ。

シャワーだけなら大丈夫ですよお。

ほら先輩。私にシャワー、かけて下さい。

嫌ですー。

先輩が掛けてくれたシャワーがいいですー。
はーやーくー。

SE…蛇口をひねってシャワーを出す。

うひゃ、冷た……。

ふへへ。体洗いますね。

【ここから、急に喘ぎ始める】

んっ……。ふう……。

あっ……。んっ……。

はぁ……。はぁ……。んあっ……。

ふえ？

えへへ。すいません。

んっ……。はぁ……。

いつも先輩に、まさぐられる妄想をしながら、オナニーしつつ、体を洗ってるモノですから……。

はぁ……。ふう……。

クセで変な声、出ちゃうんですよ。

んっ……。ふう……。

あっ……。はぁ……。

先輩、そこっ！ ダメです……。

んあっ！

シャワー当てちゃ……。だめ……。

あっ。んんっ……。

ふう、はぁ……。

【次の二行は、素に戻って】

…頭に浴びせてるだけ？

ノリ悪いですねえ。全くもう……。

【また体を洗い、喘ぎ始める】

んっ…。ふう…。はあ…。はあ…。
あっ…。んんっ…。ふう…。ふう…。

【喘ぐの終了】

……はい先輩、シャワー止めていいですよ。

SE…蛇口を止める

ふふ。

じゃあこれで。わたしも体洗い終わりましたから。
お風呂出ましょうね、先輩。

いやいや、えっちをするんですよ。

えっち、せつくす。

お布団行って、イチヤイチャしましょう。

んー…。？　なんですか？　ダメなんですかあ？

あ。やっぱりお風呂の中でしたいですかねえ？

お酒飲んで湯船に浸かるの、

危ないらしいですけどお。

私に危険なセックス、させちゃいます？

ふふ。違うなら早く、ベット行きましょう。

体なんか拭かなくて良いですってえ。

時間をもったいたいですよう。ふふふ。

場所…ベット

【位置…正面30センチ】

SE…押し倒す

あは。それですねえ先輩。

穂乃果ちゃん、今回は先輩に、して欲しいことがあるんですよ。

【位置…次のセリフ、左耳側0センチへ移動しながら】

えへへ。それはですねえ…。

【ここから囁き（有声音）】

私の指を…、舐めて欲しいんです。

【囁き終了】

【位置…左耳側5センチ】

ん…？ そのままの意味ですけど。

私も思い出したんですよ。向こう側で酔ってる最中の事。
先輩がチョコバナナ食べてて、それがえっちだったな〜と。

ですからまたあ、見たい訳です。
先輩がフェラしてる、可愛い姿。

【位置…正面斜め左耳側5センチ】

ほーら。

人差し指と中指の二本、しゃぶってください。
しないなら無理やり、お口にツツコンじゃいますよ？
あはは。

(先輩が指を舐める)

【←舐められたことによる喘ぎ】

んっ…。あっ……。

あは。そうそう。

丁寧に舐めて下さいね。

んっ……。んふ……。

…いいです。とても良いですよ。

やはりえっちです。先輩が必死に、私の指をしゃぶってる姿…。
えへへ……。

……しかし。

こうなると私に、おちんちんが無いのが悔やまれますねえ。
指ではなく、私のおちんちんで先輩のお口を陵辱できたら、
更に楽しかったと思います。

あは。せめて私の指を、

おちんちんだと思って舐めて下さいね。先輩。

峯岸穂乃果ちゃんのおちんちん。

先輩のお口で、いっぱい気持ちよくしてください。ふへへ……。

【位置…次のセリフ、正面5センチへ移動しながら】

って、ここから先輩？

言った側から歯を立てましたねえ。

そんなんじや気持ちよくなれないんですけどおー。

んー…？

難しいですか？

あは。

まあ確かに、初めてのフェラですもんねえ。先輩は。

【次の「んー…」は、考えてる感じのんー…です。】

んー……。ふふふ。

じゃあ一緒に、練習しましょうか。先輩。
おちんちんおしゃぶりする、練習。

私が今から、先輩のおちんちんを舐めて差し上げますから。
それを真似して先輩も、私の指をフェラしてください。

【位置…正面30センチ】

はーい。行きますよー…？

【ここから、フェラしながらのセリフ】

【セリフも少し、啜えながら喋っている感じが欲しい】

んちゅ…。ちゅ…。ちゅぱ。れろ。

ん…。このようにれすね。

まずは先っぽを啜えて、れろれろと、

舌で亀さんを刺激しましょう…？

はむ…。んちゅ…。ちゅ……。ちゅぱ。

気持ちいいれすか？

その気持ちよさは、

先輩のお口の中の、私のおちんちんも感じてるんれすよー。

んちゅ……。ちゅ……。むちゅ…。ちゅぱ……。

【ここ、一度フェラは中断】

【喘ぎながら。】

んっ…。んあっ……。

先輩のお口、気持ちいいです。

あっ…。んっ……。

おちんちんの先っぽ、そんなに舐められると。

んっ…。んあっ……。

どうにか、なっちやいそうです…。

あっ…。んっ……。はあ……。

……って。えへへ。

【喘ぐの終了】

【またフェラチオに戻る】

はむ……。んちゅ…。ちゅ…。ちゅぱ。

【此処からセリフは、啜えながらではなく、セリフのたびに口を離して、普通に喋る】

…どうです？ フェラチオってえゝ。

んちゅ…。ちゅ…。

楽しいでしょう？

んちゅ…。ちゅ…。ちゅぱ。

自分のお口で好きな人が気持ちよくなってるんだと思うと…、

んちゅ…。れろ…。ちゅぷ…。ちゅぱ。

幸せになってしまいますよねー。えへへ。

はむ……。んちゅ…。ちゅ…。れろれろ……。んちゅ。

ちゅぷ…。ちゅぷぷ…。れろ…。ちゅぱ。

さあさあ。

それではいよいよ奥まで啜えちゃいましょうか。

喉を開いて、お口でおちんちん、包み込むんです。

こうやっへ。

はむ……。じゆるる……！

じゅぶじゅぶ……。じゆるる……。ちゅぱ。

【次のセリフは啜えながら】

あは、ほんろにやってる。(ホントにやってる)

んちゅ……。じゅぶぶ……。じゆるる……。ちゅぱ。

【次のセリフは口を離して普通に読む】

いいですねえ。

そのままお口全体をおナホだと思って、
おちんちんじゅぶじゅぶって、しゃぶって下さい。

んちゅ……。じゅぶぶ……。

じゆるる……。じゅぶ……。

んちゅ……。じゆるる……。じゅぶ……。じゆるる……。

【ここからは、最後まで啜えたまま喋る】

わたひのおひんひん、おいひいでふか？ へんぱい。

(私のおちんちん美味しいですか？ 先輩。)

じゆるる……。んちゅ。じゅぶぶ……。んちゅ……。

あは。

わたひも、へんぱいおひんひん、おいしいね。
いっひよにに味わいましょうーね。

(私も先輩おちんちん美味しいです。一緒に味わいましょうね。)

じゅぷ。じゅぷ。

じゅるるる…。ちゅぷ。ちゅぷちゅぷ。

じゅぷぷ…。じゅるる…。ちゅぷ…。

ちゅ…。れろれろ…。ちゅぱ…。

…はい。

ここまでにしましようか。先輩。

ええ。

いっぱい舐めて貰って。私も満足しましたから。

しかし先輩、フェラの才能ありますねえ。

教えたらすぐ上達しますし、

可愛い顔で必死にしゃぶりますし…。

【位置…正面5センチ】

よしよし。頭撫でてあげましょう。

気持ち良かったですよ先輩。

私のおちんちんにご奉仕できて、先輩は良い子ですねえ。あはは。

【次の「んゝ…は、少し考えるような感じ」】

んゝ……。

あは。

なんだかフェラさせてたら、

ホントに先輩のこと、女の子に見えてきました。

【位置…次の行、左耳側0センチへ移動しながら】

えへへ。えへへ。

【ここから囁き（有声音）】

やはり先輩、ちょっと可愛すぎますねえ。
おちんちんしゃぶった後も、そんなトロけた顔しちゃってえ……。
その顔、絶対女の子にしかない表情ですよ？ ふへへ……。

【位置…正面5センチ】

という訳で先輩。

今からは、女の子同士のえっちをしましょうか。

あは。

只今より先輩のおちんちはあ、クリトリスです。
それでえ、私と百合えっちしましょう。

意味がわからない？

やってみれば分かりますよお。

ほら。

女の子同士は、
クリトリスを擦り付けあって、えっちするんです。

【位置…次のセリフ、左耳側5センチへ移動しながら】

こうやって、先輩と、私のを……。

【ここから素股。ゆっくり喘ぐ】

んっ……。あっ……。はあ……。ふう……。
あっ……。んっ……。ふう……。はあ……。

あは。素股じゃないです。
百合えっちですって…。

んっ…。ふう…。

ほら。ちゃんと自覚して下さい？

先輩は、女の子。

今は私と、クリトリスを擦り合わせて、
貝合わせえっちをしています。

んっ…。あっ…。はあ…。ふう…。

ね…？　そうでしょう？

はあ…。はあ…。

クリトリス気持ちいいですね。

峯岸穂乃果ちゃんと、敏感なお豆を擦り付け合うの、
体ビクビクして、女の子の甘い喘ぎ声、
いっぱい漏らしちゃいますねえ。ふへへ。

んっ…。ふう…。あっ…。ふう…。

あっ…。んっ…。はあ…。はあ…。

くちゅくちゅ。すりすり…。

くちゅくちゅ。すりすり…。

【位置…次の喘ぎ、正面5センチへ移動しながら】

んっ…。はあ…。あっ…。ふう…。

おー…。乳首も勃起してます。

ぷっくりと可愛く、主張しちゃって…。

ここもイジメないといけませんねえ、先輩。
指でつまんで…。女の子の敏感な乳首を、キュッ……って。

あは。体のけぞらせて。

乳首ダメですか？

クリトリスと同時に刺激されたら、
もう頭、まっしろになっちゃいます？

んっ…。あっ…。はぁ…。はぁ…。

ほーら。ほーら。

これが女の子の快感ですうよう。

私が教えてあげますから、されるがまま、

クリトリスも乳首も、ぐちゃぐちゃに犯されて。

女の子らしくお潮吹いて、イキ果てちゃいましょう。

んっ…。はぁ…。あっ…。ふう…。

おかしくなって下さい。先輩…。

【深めのキス20秒】

あっ…。んっ…。ふう…。ふう…。

ふう…。ふう…。はぁ…。はぁ…。

あは。好き…。

好き。すきいゝ。

好きです先輩。可愛すぎます…。

んっ…。あっ…。ふう…。ふう…。

はぁ…。ふう…。んっ…。んっ…。

んー…？

イっちゃいますか？

クリトリス弄られすぎて、
おマンコが、痙攣絶頂しちゃうんですか？

んっ…。はぁ…。あっ…。ふう…。

あは。いいですよ。

お潮いっぱい吹いて、おまんこキュンキュンさせながら、
絶頂しましょうね。

見ててあげますから。

大好きな峯岸穂乃果ちゃんと、
クリトリスクニクニ、押し付け合いながら。
女の子らしくビクビクのけぞって。
可愛い声で果てて下さいね。

【ここから、少し喘ぎを激しめに。】

んっ。あっ。はぁ。はぁ。

あ…。んんっ…。ふう。はぁ…。

ほら。

クリ気持ちいい。乳首気持ちいい。

ダメ、ダメですね。

おまんこイっちゃいますね。

【次の、「さーん、にーい、いち」を、
左耳側のセンチへ移動しながら。】

イク、イク。イク。イク。

さーん。にーい。いち。

【次のセリフのみ、囁き（有声音）】

【ここは喘ぐ感じでは無く、

腰を止めて静かに命令っぽく囁く】

ほら。伊って下さい？ セーんぱい。

【位置…左耳側5センチ】

【次の2行、絶頂】

んっ……！ んあっ……！ あっ……！
私も、 いっ……く……！ （絶頂）

はあ……。 はあ……。 はあ……。 はあ……。

ふう……。

あは。私もイケましたよお。先輩。

いやあ、先輩との百合えっち、ホントに楽しいですねえ。
やはり先輩、女の子の才能ありますよう。えへへ。

【位置…正面5センチ】

はふう…。

ああ、いえ。

突然眠くなってきました。

お酒を飲んだから？

あは。そうかも知れません。

むゝ。なんですかあ？ 意外な性癖とは？

そうですかねえ。

常日頃から、

先輩の女の子みたいな反応が大好きなのだと、
公言している気がします……。。

【位置…次の行、右耳側5センチへ移動しながら】

ん〜…。

よしよし。先輩かわいいですねえ。好き……。

ふふ。えへへ……。

あー……。私も可愛いです？
うへ。嬉しいです。

いやいや。そーなんですよお。

お酒を飲んだのは、
先輩が、酔ってる私を可愛いと仰ってくれたからで。
だから……。だからあ〜……。

あは。もっと言って下さい。穂乃果、可愛いよって。

あは。いつも可愛いですか？

えへ。嬉しいです。

他はどうでもいいんですけど、先輩にだけは、
可愛いと思われたいものでして……。

（ここは先輩に、

「いつも可愛いからもう飲まなくていい」と言われてます。）

あ。なんですかそれ。

嫌ですよ。お酒はまた飲みますー。
結構気分良いんですコレ。えへへ。

……。

はあ……。ふう……。

【ここから、少し眠そうに】

あは。すいません。もう、寝ちゃいそうで……。

次は先輩も飲みましようね。

酔った先輩、興味あります……。

んゝ……。？ あは……。。

トラック10…監禁搾精えっち

【位置…正面50センチ】

うーん……。

ええ。少々悩み事です。

先日私、通販で手錠を買ったんですよ。

先輩を拘束してえっちしたら、楽しそうだなと思ひまして。

……それで届いたのがこれなのですが……。

少々、想定よりも本格的な手錠なんですよ。

力を込めれば外せてしまうような、玩具の手錠を想定していたら、合金製の、ガチな手錠が届いてしまいました。

…それで少々、使うのをためらっている訳です。

あは。そりゃあためらいますよ。

私、拘束されて本当に逃げられなくなった先輩を前にして、凶行に走らない自信が無いからです。

真面目な話ですよ？

私の夢、先輩を監禁する事だと言うのは、お話しましたよね。

プレイが終わったあとに魔が差して、

そのまま先輩を拘束しっぱなしにしてしまう…。とか。

全然してしまいそうですし、

あとは単純に、

動けないのを良いことに先輩をイジメすぎてしまうとか…。

そういう懸念もありますし……。

おやおや。

大丈夫だろとは、私の事を信用しすぎですねえ。

いつも私、

結構ギリギリのところでも理性を保っているのですよ？

先輩は知らないかもしれませんが……。

私、先輩が思っている以上に先輩の事、

滅茶苦茶にしたいと思ってるんです。

エッチな意味でも、人生的な意味でも……。

いや、監禁されても大丈夫とか。

滅多なことをいうモノではありませんよ？

実際されたら困ることは、目に見えているでしょうに……。

はあ……。 (溜息)

……。

……まあ。

やはりこの手錠を使うのは、やめにしましょう。

最悪の場合先輩でも外せるようなチープな手錠を、
改めて買うことにします。

ええ。

今日はいつも通りのえっちをすると言うことで。

水分補給してからしましうか。

お茶、持ってきますね。

場 転

（峰岸がお茶を持って来た後の状況）

【演技…苦笑いしてる感じ】

……。

あの。先輩。

状況を説明して頂けないでしょうか。

……見ての通りと言われましても…。

そうなった経緯を聴いてるんですよ。

どうして私がお茶を汲んで戻ってきたら、

先輩が両手を手錠につながれて、

ベットに拘束された状態になっているんです？

一体私が居ない間に、何があったんでしょうか。

……はあ。先輩ご自身でやったと…。

私に何されるか、興味が沸いて……。

…本気で言ってます？

【ここから、心底あきれた様子で】

……。

はあ……。 （大きなため息）

どうして先輩は定期的に、

ビックリするほどおバカな行動を取るのでしょうか。

私の人生において、

後にも先にも先輩程愚かな人はあらわれないでしょうね。

というか、その馬鹿さ加減でよく今まで生きてこれたモノです。

運が良かったですねえ。ホントに。

【位置…正面5センチ】

【ここから、少しヤンデレぽく】

ねえ先輩。

私、言いましたよね。

拘束された先輩を前にしたら、

私、何するか分かりませんよと。

このまま先輩を家に帰さず、監禁しちゃうかもしれませんよと。

それを聴いたうえで、何故そんな行動を取ったんです？

危機管理とか、そういう概念が、無い感じですか？ 先輩は。

【演技…また呆れた感じで】

あの。どうしてそんな嬉しそうな顔をするんですかねえ。

私、本気で先輩に呆れていますし、

本気で先輩を滅茶苦茶にする気なんですが……。

はあ……。 (溜息)

まあ良いです。

もう後悔しても遅いですからね。

自分の馬鹿な選択の報いを、今から存分に受けて下さい。

【位置…正面30センチ】

【次の行でズボンを脱がせる】

ん…しよ……。

うわ。おちんちんまで大きいじゃないですか。

終わってません？ 真面目に。

【位置…次のセリフ、

正面斜め右耳側5センチへ移動しながら】

じゃあおまんこに、挿れますよー…。

【次の2行でおちんちん挿入】

んっ……。んんっ……。

あっ……。んあっ……！！（挿入）

【位置…次の行で呼吸を整えながら右耳側5センチへ】

はあ……。はあ……。ふう………。

【演技…ここからおもむろにセックススタート。】

【最大ではないですが、早めのペースでピストン】

【呆れてる感じは、ここからは出さなくても良いです。

（セリフによつては出す感じになると思いますが…）】

んっ、あっ、はあ、はあ。

あっ、んっ、ふう、はあ。

…あは。

どうですか先輩。

いつもの騎乗位おまんこも、手錠で拘束されていると、全然違うでしょう？

んっ、あっ、はあ、はあ。

抱きつくとか、シーツを握りしめるとか、快感を逃す行為が、一切出来ませんから。

んっ、あっ…。

峯岸穂乃果ちゃんのトロトロおまんこの快感、おちんちんでダイレクトに受け止めさせられて…。

んっ…。ふう…。

どうしようもなく、悶えちゃいますよね。

んっ、あっ、あっ、はあ。

んっ、んっ、んっ、あっ。

喘ぎ声、止まりませんか？

おちんちんの快感が容赦無く積み上がって…。

んっ…。あっ…。

射精感、どんどん押し寄せてきますか？

あっ、あっ、んっ、はあ。

ふふ。持ち良すぎて大変そうですね。先輩…。

では耳舐めをして、更に大変にしちやいますね。ふふふ。

【耳舐め20秒】

んっ。ふう…。

おや、もう出ますか？

お射精ぴゅっぴゅっ、してしまいます？

あつ、はあ、んっ、んっ…。

あは。早すぎません？

快感を逃がせないと、

よわよわおちんちんにも磨きがかかりますねえ。

んっ。はあ…。

いいですよー先輩。

それでは出してください。

私のおまんこはいつでも、先輩の中出し、大歓迎ですから。

赤ちゃんのお部屋にびゅーびゅーどくどく。

沢山子種を注いで下さいね。

ん。あつ、はあ、あつ。

ほーら。カウントダウンしてあげましょう。

ごーお。よーんっ。

んっ…。あつ、はあ、あつ。

さーん。にーい。んっ…。

いち！ ふう…。

【ピストン終了】

【位置…右耳側のセンチ】

【ここから囁き有声音】

中出しどーぞ？ セーんぱい。

びゅーー。びゅーーー。びゅるるーーー。

【次の一行、射精されたことによる絶頂】

んっ……………んあっ……………！

イツ……………く……………！！！！　　うあ……………。

はあ、ふう……。

……あは。沢山出てます。
とろけた顔して……。幸せそうなことで。

どくどく……。びゆくびゆく……。
ぴゅっ……。ぴゅっ……。ぴゅ——……。

【次の行も、少し絶頂してます】

んっ……。あふ……。んあっ。

……ふふふ。

……。

出し切りまた？
ふふ。そうですか。

【位置…次のセリフ、正面5センチへ移動しながら】

それではまた。
おまんこピストン、再開しますね。

【ここからピストン再開。】

んっ、あっ、はあ、はあ、
あっ、んっ、はあ、はあ。

…おや。どうしました先輩。
手錠をガチャガチャいわせて。

んっ、ふう…。

やばい？

射精直後の敏感おちんちん、
おまんこでぬふぬふされるの、ダメですか？

んっ、あっ、あっ、はあ。

あは。先輩、見たことないくらい喘いでます。

んっ、ふう。

男性の連続射精が辛いというのは、聞き及んでいましたが…。
いやはや、そこまで情けなく感じてしまうモノなのですねえ。
想定以上です。

んっ、あっ、んっ、はあ。

んー……？

やめてですか？

一旦ストップ？

はあ、はあ。

そうは言われましても、私はまだまだおまんこしたいですから。
やめる気は無いですなえ。

んっ、んあっ、はあ。

ふふ。そんな辛いなら、逃げれば良いじゃないですか。

男性の強い腕力で私をどかせば、
簡単におちんちん、助かりますよ？

んっ、あっ、あっ、はあ。

んー………？

あは。そうでしたそうでした。
先輩は今、なぜか両手をベットに拘束されて、
バンザイのまま動けないのでした。
これでは逃げられませんかえ。

んっ、はあ…。

いやはや、ご愁傷様です。

敏感おちんちんが私のおまんこでぐちゃぐちゃに陵辱されるのを、
ただ受け入れるしかないとは…。

はあ。ふう。

可哀想ですから。

慰めのべろちゅーくらいはしてあげますね。あはは。

【深めのキス20秒】

んっ、あっ、はあ、はあ。

【位置…次の喘ぎ、左耳側5センチへ移動しながら】

あっ…。んっ…。ふう……。

ほら、どうです？

少しは自分のバカさ加減に、気が付いたでしょうか？
んっ…。あっ…。

拘束って、こう言う事なんですよ？ 先輩。

はあ、はあ、あっ、んっ…。

どれだけやめてほしくても、全て相手にされるがまま。
拒否権ゼロで、良いようにされちゃうんです。

んっ、んっ、んっ、あっ。

おちんちん辛いですね。

射精したのに手加減なくおまんこで、
ぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅ犯されて。

感じすぎて、頭おかしくなりそうですね。

はあ、はあ。

…でも。

手錠のせいで逃げられない。抵抗もできない。

おやおや。おちんちん壊れるしかないですねえ。このまま。

んっ、あっ、んっ、んっ……。

…ばーかばーか。

ばーかばーか。

存分に後悔しながら、私に犯されましようね〜先輩。

まあ、快感で頭真っ白で、

後悔できる程の思考能力も、残って無さそうですけどね。

あはは。

【耳舐め20秒】

んっ、あっ、はあ、はあ…。

んー…？ また出ます？

はあ、ふう…。

あは。どーぞどーぞ。

いつでも出して下さい。

んっ…。ふう…。

出してもピストン、やめる気は無いですけど。

先輩が射精すると私もイツちゃうので、気持ちよくて嬉しいです。

あっ、んっ、はあ、はあ。

あっ、あっ、んっ、んっ。

ほら。だーせ。だーせ。

大好きな穂乃果ちゃんと、一緒にイキましようねえ先輩

びゅーびゅー。びゆるるるー…。

【演技…次の三行で絶頂】

んっ、んああっ！

あっ……。くっ……。

イクイク、イツ…クッ………！（絶頂）

【絶頂と同時にピストン一旦終了】

はあ……。はあ……。ふうー……。

…あは。ホントに出ました。気持ちいい……。

【位置…正面5センチ】

【またおもむろにピストン再開】

んっ、あっ、はあ、はあ。

あっ、んっ、ふう、はあ。

いや、やめないうって言いましたけど。

んっ、ふう…。

無理とかダメとか。うるさいですねえ。
先輩の意志は関係無いんですよー？

んっ、はあ。

私がしたいだけ。

おちんちん搾りますから。
可愛く喘いで、素直にぴゅっぴゅっして下さい。

あっ、あっ、はあ、はあ。
んっ、んっ、ふう、はあ。

…しかし。可愛いですねえ。
おちんちん搾られてる先輩、ホントに愛らしいです。

んっ、はあ・。

ふふ。もう良いですよね。
このまま、監禁してあげますねえ、先輩。

あっ、んっ…。

監禁……。この手錠、もう解きません。ふふふ。

あっ、んっ、はあ、はあ。
はあ、はあ、あっ、あっ。

ねえ先輩。

私、いつも手加減してたんですよ？
あんまり搾ると、先輩の生活に支障が出るからと、
おまんこそれなりで、我慢してたんです。

んっ、ふう…。

ですけど。

このまま先輩を監禁するなら。

もう先輩の生活とか、気にしなくて良いですよね。

んっ、あっ。

私がお世話しますから、

動けなくなるくらい先輩を搾り尽くしても、問題無い…。

そうでしょう？

はあ、はあ、あっ、んあっ。

…ほら。おちんちん全部搾りますよー。

んっ、ふう。

一滴残らず射精して、たまたまが空っぽになったら、次はカライキしながらえっちしましょう。一日中ずーっと。その繰り返しです。

あっ、あっ、んんっ。ふう…。

んっ、んっ。んっ。あっ…。

あは。良いですねえ。

今日から先輩を監禁して、

毎日毎日、朝から晩までおまんこえっち…。

はあ、ふう。

夢が叶って、私幸せです。

大好きですよー先輩。あはは。

【ここから、さらに早くピストン】

ん、ん、あ、あ。

はあ、はあ、あ、ん。

ん、ん、あ、あ。

ん、ん、ん、ん。

おやおや、目の焦点があってませんよ？ 先輩。

そんなに暴れて…。

どうしたってその手錠は外れませんって。
手首が傷ついちゃいます。

ん、ん、あ、あ。

もう無理？ 出ない？

ん、ふう。

はいはい。無理でもやめませんよー。

だーせ。だーせ。

搾ってあげます。

ん、ん、あ、あ。

あ、あ、はあ、あ。

あーあ。涙目になって……。

気持ち良すぎて泣いちゃいましたねえ。

ん、ふう。

ふふ。泣いてる先輩、可愛いです。

可愛いですから、沢山涙を流して、よがっていいですよー。

ん、あ、ん、ふう。

おちんちん辛いですねえ。

辛くて気持ちよくて、泣いちゃいますねえ。

あ、はあ。

ほら。

手が動かないから、恥ずかしい泣き顔を隠す事も出来ず。

穂乃果ちゃんに見つめられてますよ？

恥ずかしいですね。ふふふ。

ん、ん、あ、あ。

はあ、はあ、あ、ん。

あは。明日も明後日も、毎日おちんちん犯しますけど。
その調子で耐えられそうですか？ 先輩。

ん、ん、ふう、ふう。

まあ、耐えられなくてもしちやいますけどね。

明日は朝から、ずーっとイジメてあげます。

ん、ん、はあ、はあ、

あはは。終わっちゃいましたねえ。先輩の人生。

もう私の旦那さんとして、おちんちん搾られ続けるだけの生活が、
最後まで確定しちゃいました。

ん、ふう。

ばーかばーか。
ばーかばーか…。

馬鹿なことするから、馬鹿な結果になるんですよ？

ん、あ、ん、ん。

【位置…次の三行目。「ほら」で、右耳側5センチへ移動】

もう取り返しつきませんから。
諦めて私と、墮落した生活に、堕ちていきましょうね。
ほら。ぴゅっ、ぴゅっ。ぴゅー……！

【ピストン終了】

【先輩が射精したので、それに合わせて絶頂】

んあっ、あっ…！ あふ…。
…ふう。

あは。

ここまで来るとおちんちんがヤバそうなくらい痙攣するので、
射精のタイミング、わかりやすいですね。
まだ出るでしょう？

びゅーびゅー。どくどく。

ぴゅっ、ぴゅっ、ぴゅー……。

【次の4行、強く絶頂！】

んあっ…！ああっ！ んっ！ んんっ…！！
あ…くっ……。ヤバ…。
いっ…くっ…！！

……。

…はあ。はあ…、はあ……。ふう……。

【ここから、絶頂が強すぎて、ちょっと苦しそうに】

…あは。

もう、おちんちん滅茶苦茶に跳ね回って…、
おまんこ、かき回されちゃいますねえ。

んっ……。あっ………。

うう………。

あれ？ あっ……。うっ………。

はあ、はあ。

ふう……。…。

【位置…正面斜め右耳側5センチ】

ちょっと……。ごめんなさい。
休憩にしましょう。先輩。

【位置…呼吸を整えながら、左耳側5センチへ移動】

はあ……。ふう……。…。ん……。ふう………。

んー？

いえ、続けるつもりだったんですけど。
今の絶頂が深すぎて、ちょっと……。

おまんこが、イキっぱなしで……。

はあ、ふう………。

動けないんですよ。あはは。

ん……。はあ………。

【ここから、少し呼吸が落ち着いてくる】

やはり、先輩おちんちんで絶頂するのは、オナニーとは違いますね。ここまで深イキするのは、初めてで、少し、戸惑ってます……。

ふうー……。。

……………。

あは。何を「終わったー」みたいな顔をしてるんですかねえ。おまんこが大丈夫になったら、またセックス再開ですし。そもそも今日から、先輩は私に監禁されるんですよ？

【位置…正面5センチ】

ほら。口開けて下さい。

えっち再開までは、べろちゅーです。

【優しめのキス20秒】

トラック11…監禁おしっこ調教

【位置…正面5センチ】

【前トラックの続きの状況です。
最初の一行、キスからスタート】

んちゅ…。ちゅぷ…。むちゅ……。ちゅぱ。

ん……？

どうしました？ 先輩。

あは。なるほど。

おしっこですか…。

えっちのあとは交感神経の関係で、催しやすくなるそうですから、当然といえば当然の流れですね。

……それで？

どうしたいんです？ 先輩は。

へえー。ふむふむ。

お手洗いに行きたいと……。

ではどうぞ。行ってくれば良いですよ？

……。

んー……？

あは。

そうですねえ。

拘束されてますから、行けませんねえ。

分かってますよ。あはは。

おや。与太話をする程の余裕も無いと。
割と限界？ それはそれは、可哀想なことで。

…ですけど先輩。
普通に考えて…。

おトイレなんて、行かせてもらえる訳ないですよねえ。

だって手錠を外したら、
先輩逃げちゃうかもしれないじゃ無いですか。

私、先輩を監禁してるんですよ？

どうしてこの状況で、
催した程度の事で、拘束を解いてもらえると思ってるんでしょう。

……。

あは。ここですれば良いじゃないですか。

この、ベットの上で。
しーって。お漏らし。

流石に無理？

おやおや。

自分から拘束されたくせに。
わがまま極まりないですねえ。先輩は。

逃げないから？
はあ…。(溜息)

……まあでも、そうですね。
流石にそこまで先輩の尊厳をおとしめるのは、
良くないですよねえ。

いいでしょう分かりました。
ここは譲歩してあげます。

終わった後も、
逃げずにちゃんと監禁されてくれると約束するのであれば、
トイレでおしっこ、させてあげましょう。

あは。安心した顔。

ですけど先輩。

おトイレは、後もう少し、キスをしてからです。
単純に、キスの最中でしたから。

中断されて、消化不良なんですよ、私。

ヤバイとか知りません。

それならキスで、はやく私を満足させて下さい。

【位置…次の行、正面斜め右耳側30センチへ移動しながら】

ええ。それでは……。

【次の一行は、口の中にお茶を含む描写です。】

んっ……んー……。

【位置…次のセリフ、正面5センチへ戻りながら】

【←お茶を口に含んだまま、セリフ。】

ふあいへんぱい。きふでふよ——……
(はい先輩、キスですよ)

【←キスしながら口移しでお茶を飲ませる】

【水音多めのキスだと嬉しい】

はむ…じゅぷ……。ちゅぷぷ……。じゅる……。ちゅぱ。ぷはあ。

あは。どうしました？

何と言われましても、

口移しでお茶を飲ませながら、キスしただけですよ？

そう言えばせっかくお茶を持ってきたのに、

水分補給していなかったなと、思い至りまして。

先輩の体調管理も、監禁してる私の、大事な仕事ですからねえ。

えっちのあとは、ちゃんと水分を取らせてあげませんと。

【位置…次の行、正面斜め右耳側30センチへ移動しながら】

ほら。もっと飲んでください？

んっ……。ん…。(お茶を口に含む)

【位置…次のセリフ、正面5センチへ近づきながら】

きふひながら、ながひこんであげまふ…。

(キスしながら、流し込んであげます)

ん……。んちゅ……。ちゅぷぷ…。

じゅる。じゅぷぷ…。じゅぷ……。ちゅぱ。

っはあ…。

あは。大丈夫ですか先輩。

なんかだいぶ、余裕なさそうな顔してますが。

無理？ 無理ですか？

ふふふ。おしっこ限界まで我慢して、その上で強制的に水分補給。お漏らししないよう、必死なんですねぇ。

【次の一行は、少し圧を感じるように】

んー…？ 嫌ですけど。

私にとって、先輩にちゃんと水分補給させることと、キスをするのは、先輩がお漏らしするリスクより、優先順位が高いんです。

【位置…次の行、正面斜め右耳側30センチへ移動しながら】

ほら。このままコップ3杯分は飲んで下さいね。
こぼしたら、更に追加で飲ませますから。

んー……。 (口に含む)

【次のセリフ、正面5センチへ近づきながら】

はい。ひっかきのどならひて、飲み干ひてくらはい。
(はい。しっかり喉鳴らして、飲み干してください。)

はむ…。じゅぶ……。じゅる……。ちゅぶ…。
じゅぶ……。じゅぶ…。ちゅば。

SE：二杯目のお茶を注ぐ音。

【ここからはお茶を口に含む時も正面5センチになるので、移動しなくて大丈夫です。】

ん、んー…。 (口に含む。)

はむ……。じゅぶ……。んちゅ…。じゅぶ…。ちゅば。ふはあ。

……あは。足をそんなにもぞもぞさせて。
苦しそうなうめき声……。

許してって……。

別に、怒ってないですけど…。

ただ私、キスと水分補給を、先輩としたいだけです。

いやいや。いらないじゃないですよ？

あと一杯半。ちゃんと飲んでください。

先輩は監禁されてるんですから。

私の言うこと、聴くしかないんです。

んー…。んっ…。(口に含む)

ほら。つづきでふ。のんれくらはい。

(ほら、続きです。飲んでください。)

はむ…。ん……。んちゅ…。ちゅ……。ちゅぱ。

んちゅ…。ちゅ…。ちゅぷぷ……。んちゅ…。ちゅぱあ。

ふふ。口移しで飲ませるの、お世話してる感強くて、最高ですね。
可愛いですねえ、ふふふ。

んー……。(口に含む)

ほら、お茶れふよ。

(ほら、お茶ですよ。)

んちゅ…。ちゅぷ……。じゅる……。んちゅ……。

じゅぷ……。じゅる……。んちゅ……。ちゅぱ。

ふう……。

SE…お茶を注ぐ音

はい先輩。

最後の一杯ですよ。

なんですか？

そんな内またでプルプル震えながら、
媚びるような目線を向けないで下さい。

可愛すぎて…。もっと飲ませたくなっちゃいます。あはは。

…キツイ？ おトイレ行きたいです？

あは。大変ですねえ。

おしっこ限界なのに、お腹タプタプになるまでお茶飲まされて。

ああ、そう言えば緑茶ってカフェインが入っていて、
利尿作用があるんですした。

いやはや。

想像以上に先輩は今、尿意に襲われているんでしょうね。

もじもじ…。もじもじ……。

あはは。

ああ。はいはい。急かさないで下さい。
ちゃんと飲ませてあげますって。

ん……。 (口に含む)

はい。あーんれふよー……。

(はい。あーんですよー)

んちゅ……。じゅるる……。じゅぶ。

んちゅ……。じゅるる……。じゅぶぶ……。ぶはあ。

二口目も……。んー…（口に含む）
はい。ろーぞ。

はむ……。んちゅ……。ちゅ……。じゅるる。
ちゅぷ……。じゅぷ……。んちゅ……。ちゅぱあ。

ふう……。

さて。あと一口でコップ三杯、おしまいですよ？

ふふ。急かさないで下さい。

というか、あと一口でおしまいなんですから、
最後にちよっと、遊ばせて欲しいです。

んー…？

【位置…次のセリフ、左耳側0センチへ移動しながら】

遊ぶって言うのはこう言うことですねえ。

【ここから囁き（有声音）】

ほら。先輩の下腹部に指を置いてー……。

膀胱をお腹の上から。

ぎゅっ、ぎゅっ、ぎゅー。

あは。体にめっちゃ力入ってます。

このマッサージ効きますか？ ダメ？

パンパンの膀胱を、ぐーって押し込まれて。

これされると、おちんちんの方へおしっこがどんどん押し出されて、
普通にお漏らし、しちやいそうになりますよね。

あは。ヤバイ？
しちやいます？
お漏らししーって。しちやいますか？

ほらほら。恥ずかしいですよ？
その年でお漏らしなんて。
我慢。我慢です。

ぎゅっ、ぎゅっ。
ぎゅっ、ぎゅっ…。

ふふ。すごい声。
本当に情けなくて、可愛いですねえ。

私より年上なのに、お漏らししちゃうと騒ぎ立てて…。

ぎゅー。ぎゅー。

あは。頑張れー先輩。

ぎゅっ、ぎゅっ。ぎゅー。う。

…ふう…。

【囁き終了】

【位置…正面5センチ】

さて。あまり虐めるのも、まあ可哀想ですね。
これだけ膀胱を圧迫して出さなかったのですから、
そのトイレへの執念に免じて、
流石に最後の一口、飲ませてあげるとしましょうか。

ええ。えらいでちゅねー先輩。
おしっこ我慢、できまいたね？ あはは。

んー……。 (口に含む)

はむ……。 んちゅ……。 ちゅ……。

じゅぷ……。 ちゅ……。 ちゅぷぷ……。 ちゅぱ。

はい。お疲れ様でした。

全部飲み終わりましたね。

ええ。

キスの方も気持ちよかったですから。

約束通りおトイレで、おしっこさせてあげます。

ホントですよ？ 頑張りましたねえ先輩。

よしよし。ふふふ。

【位置…次の行、正面斜め右耳側50センチへ移動しながら】

それでは……。 んっ……。 しょ。

はい。どうぞ。

おトイレ準備しましたから、存分におしっこ、して下さい。

……。

んー……？

ペットシートですよ？

いや、だから。先輩のおトイレです。

あは。別に私、

手錠を解いてこの家のトイレまで行かせてあげるとは、一言も言っていないですねえ？

トイレでさせてあげるとだけ、言ったはずですよ。

いやいや、トイレですよ？

これをトイレじゃないと言ったら、世の中のペットさんたちに失礼です。

先輩はおバカで、私のペットみたいなモノなのですから。このおトイレがお似合いじゃないですか？

あは。信じられないって、顔してます。

ですが沢山お茶を飲んで、膀胱を圧迫されて、

先輩の尿意は、もう限界ギリギリどころじゃないハズです。

口論をする余裕、ほんの少しもないんですよ。

もう先輩、詰んでますねえ。ふふふ。

【位置…右耳側0センチ】

【ここから囁き（有声音）】

ほら。観念して、ここに出してください。腰を横に向けて……。そうそう。

おちんちんは先輩の代わりに、私が支えててあげますから。

女の子の、後輩彼女の前で。

ペット用トイレにしーって、

おしっこいっぱい、垂れ流しましょう。

さ。おしっこして。

おしっこしろ。先輩。

しー。しー。しー。しー。しー。

……。

あは。出てますねえ。

じょぼじょぼと、勢いよくおちんちんから、噴き出してます。

私の指先に、尿道を通る先輩のおしっこの感触、伝わってきますよ。

膀胱の中身が、尊厳と一緒に、溢れ出ていきますねえ。

……おや。また泣いてます？

今日は先輩、私に泣かされてばかりじゃないですか。

あは。恥ずかしくてよく分からないですか？

そうですね。

好きな子に、おしっこ補助されながら、しっかり見学されて。恥ずかしくて情けなくて。おかしくなりそうですね。

でも、大好きですよ。

私、今の先輩の可愛い姿。

ホントに大好きです。

…あと。ざまあみろとも思いますね。

私先輩の事、嫌いなので。

…あは。

【囁き終了】

【位置…右耳側5センチ】

ほら。おちんちん振って。

残りのおしっこも出し切らせてあげます。

ふりふり、ふりふり…。

おちんちんふりふり…。

…ん。おっけーですね。

【位置…正面5センチ】

まあ先輩。監禁されて、繰り返していくうちに、これも恥ずかしくなくなりますよ。

いつかホントに、私のペットのように。

堂々とおしっこ、できるようにしましょう。
調教してあげますから。ふふふ。

……。

はあ……。 (ため息)

【位置…次のセリフ、正面30センチへ離れながら】

……とまあ。

流石にそろそろやりすぎですかね。

いえ。手錠を解く頃合いかと。

あは。監禁というのは嘘ですよ。
したいのは山々ですが、

流石の今の状況だと、実現性が薄すぎますから。

【位置…正面斜め左耳側5センチ】

ほら。手錠外しますよ。

ん…しよ……。

あーあ。手首も結構擦れてますねえ。
体もガチガチ？ それはそうでしょう。

【位置…正面30センチ】

はい。それじゃあ涙を拭いてあげますから。
じっとしててください。

（←涙を拭くときの呼吸）

ん……。ふう……。

…どうです？ 私に滅茶苦茶にされて。
これで少しは、懲りましたか？
もう2度と馬鹿なこととはしないと、思えました？

【次の三行、呆れながら】

…いやホントに。
先輩はもう少し、自分を大事にしてくださいね。
私のような女の子の前で、隙を見せすぎなんですよ。
恋人に選んだ時点でだいぶおバカさんなのに、
さらにこんな行動して……。

【次の「は？」は、ちょっと軽蔑する感じが欲しい】

……は？

良かったからまたしたい？

あのですねえ先輩。あなたは本当に……。
はあ……。 （溜息）

まあ。分かりました。
そう言うなら、いつかいずれ、またしましょう。

先輩を監禁する準備を、完璧に整えて。

誰にも邪魔されない先輩とのえっちしまくりな生活を、担保できる日が来たら……。

その時に改めて、また手錠をかけてあげます。

今度は私から。押し倒して。

ええ。その時が来たら…。

「次の一行は少し寂しそうに。

幸せになる自分への自己嫌悪は、まだ拭えていないですが、いつか拭えてしまう気がしている、複雑な感情です。」

結婚しましょうね。先輩。

トラック12…トラック7のオナニー音声

【位置…左耳側15センチ】

【ゆったりとオナニーする感じ】

（オナニーしながら料理してます。）

んっ…。あっ…。はぁ…。はぁ…。
んんっ…。んあっ…。はぁ…。ふう…。

先輩。先輩。んっ…。はぁ…。
好き。んっ…。あ、そこ、いいです。
ん…。はぁ…。あっ…。はぁ…。

んっ。んん…。あっ…。ん…。
んっ、あっ…。ダメ。あっ…。ん…。

【←ここは、料理中に先輩にいたずらされる妄想をしています】

はぁ…。はぁ…。
んっ…。あっ…。

ちょ、ダメですよ先輩。
料理中なんですから、

おまんこにイタズラ、しないで下さい。
んっ、はぁ…。

危ないですって、まったく…。
あっ、んっ、んっ、ふう…。

はぁ…。はぁ…。んっ…。んっ…。
えっと。塩と、胡椒を…。
ん、んあっ…。はぁ…。はぁ…。
んっ…。ふう…。んあっ…。ん…。
あっ…。んっ…。んんっ…。ふう…。

【次のセリフは、少し自虐的に】

【少しオナニーする指を落ち着けて、喘ぎ控えめ】

ん……。ふう…。

ご飯、出来ました。

あは。多いですねえ。

2人分作っても、先輩はこの家にいないというのに……。

んつ……。はあ……。

まあ、残りは明日の朝に、ですね。

あつ……。んつ……。はあ……。はあ……。

ほら。ご飯できましたよ先輩。なんて。
あは。

あつ……。んつ……。んんつ…。
ふう…。はあ…。はあ…。

【ここで仕切り直し。（別のオナニー）】

【ここからは、

先輩とスマホでやりとりしながらのオナニーです。】

【激しく喘いでください。】

んつ、ああつ、はあ、ふう。

あ、んんつ、ふう、はあ。

先輩。せんぱいっ。

あ、んつ、んふ、はあ。ふう……。

ふふ。硬い文章…。

んつ…。ふう。ああ…。

先輩らしい、女の子慣れしてない、メッセージで、
あつ、んふつ…。かわいいです。ふへへ。

ん、んんっ…。はあ。ふう。
あっ、んっ。あっ。はあ

【次の一行、絶頂】

あ、イク…。イク。先輩、ダメ、いくっ……………！

【いった後、余韻に浸ってゆったり喘ぐ感じで】

ん、あっ、はあ…。はあ…。ふう…。
よし、返信、っと……………。

はあ…。はあ…。んっ…。ふう…。
あ…。んんっ…。ふう…。ふう…。

お。返ってきました。

ちよっ、先輩……………。連続で送りすぎですよ…。
えっと、3個だから…。3回イかなきゃ、ですか……………。
いじわるですねえ…。まったく。

【また激しく喘ぐ】

んっ、んあっ、んっ、ふう。
あっ、んっ、はあ、はあ。
ん、ん、あっ。んあっ。
あっ、んっ、はあ、ふう…。

【ここから、絶頂シーンが連続しますが、

いったあとスグにオナニーを再開する感じで】

ん、んんっ、イク、イク、イキます、先輩。
イク…っ！ んあっ…！！

ん、んんっ、あっ、はあ。
はあ、はあ、あっ、んっ。
んっ、んっ、んん、んあっ。
あっ、ん……。はあ、はあ…。

あ、ちよ、また3個も。
バカなんですか？
んっ、ふう。あっ、ふう。
一つにまとめて、送ってくださいよ。
ばーっかつ…。んんっ…。

んっ、あっ。またイク。
ダメせんば、イ…っク！（絶頂）
あ……。

はあ…、ふう…、ふう…。
あと、4回…。

んっ、あっ、はあ、ふう。
あっ、はあ、ん、んあっ。

あっ、あっ。んあっ！
せんばい…。おまんこ、ダメ…。
んっ、んは。
連続絶頂、キツイ、ですって…。
ふう、ふう。ん、ん、
んあっ、あっ、あっ、はあ…。

ん、ん、イク！

あ、あ、ばか、先輩っ！

んっ……！！んあっ！あっ……！！（絶頂）

くっ……。んっ……。

はあ……。はあ……。はあ……。

んっ……。んんっ……。あっ……。

あ、あ、あ、あ、

ん、んあっ、んんっ、あっ。

うあ……。きもちい……。んっ。ふう……。

えっと。

あと、3回……。でしたね。ふう、ふう。

んっ、んんっ。はあ、はあ。

あっ、あっ、ふう、ふう。

キツい、です。んっ、はあ。

おまんこ、イキまくってるのに、
ずっと、くちゆくちゅ……。

んあっ！んっ……。

はあ、ふう。ん、はあ。

でも、イかなきや……。

ん、あっ……。

返信、したい。先輩と、おはなし……。ふへへ。

んっ、あっ、あっ、はあ。

あっ、んんっ。はあ、ふう……。

ん、ん、あ、あふ……。
イク、イク。また、イきます。

んっ、ん、んん。あっ！
先輩、せんぱいっ！ イっ……クッ！！
んあっ……！ んゝ……！！

んっ、あっ、はあ、はあ。
あっ、ああ、はあ、はあ……。

余韻、凄いですねえ……。
おまんこ、痙攣して……。

あっ、ん、ん、ん。
あ、あ、はあ、はあ。

またイクっ。イク！
辛い、のに。指、止められなくて……。
あ、あ、あ、んっ！。

イクイクイクイク！
無理。イっ……クう……！！（絶頂）

ん、んあっ……。あ、あ、

ん、ん、んんっ！

まだ、もう一回。このまま、イきます。

はあ、ふう、ふう、ふう。
せんぱい、せんぱい……。
ん、ん、ん、ん。
あ、あ、あ、あ。

【次の3行、少し長めの絶頂】

い……。あ……。イ……。つく！！
ん……。ああ！
伊ってます……。せんぱいっ……！
伊っ……。

【次の一行で呼吸を整える】

はあ……。はあ……。はあ……。ふう……。

【いった後、余韻に浸ってゆったり喘ぐ感じで】

ん……。
やっと返信、できますね。
ん……。はあ……。
ふふふ。
あたま、ぼーっとしちゃいます。
先輩のせいで……。えへへ。

ん……。ふう……。はあ……。はあ……。
あ……。んっ……。ふう……。はあ……。

んあっ、もう。
お返事早すぎですよー先輩。
私の事、大好きじゃないですか……。
ふう……。

【次の四行、オナニー再開。また激しく喘ぐ】

んっ。んあっ、あっ、はあ。
はあ、はあ、あ、ん……。
んっ。んんっ、あ……や……。
あっ。んんっ、ふう……。ふう……。

【ここで仕切り直して読んでもらって大丈夫です。】

【ここからは、編集で適当に組み込むセリフなので、空白行ごとに、分けて読んで貰っても構いません】

【全て激しく喘ぎながらのセリフです】

ん、んっ……。はあ、ふう。

先輩。先輩。

んっ、あっ、はあ、はあ。

ちよ……。また連続で、

私のおまんこ、壊す気ですか……？

んっ、あっ、はあ、はあ。

ん、ん、ん、

いく……。イク……。

あー……。いくう……。

ん、あっ……。んあっ！ あっ……。

（緩めの絶頂）

あっ。んっ、はあ、はあ。

ん、んっ……。

好き……。先輩。

はあ、はあ。あ。あ。

や、ダメ……。

ん、あっ、はあ、はあ。

んっ、んあっ。ん、んんっ。

おっぱい……。乳首も……。んっ……。もっと……。

あっ。んあっ！ んっ、あっ。はあ……。

んっ、あっ、はあ、はあ、

イク。イクっ！ もうダメ、イクっ……！！

んっ……。んあっ……。あ……。

（絶頂）

はあ……。はあ……。

んっ、んっ。あっ、はあ。

んっ、あっ……。あつ。

無理……。

んっ、ああっ。

おまんこ、無理ですよ。先輩……。

んっ……。んふ……。んっ……。ん……。

あっ！んあっ！！んっくく……！

ふう……。はあ……。

んっ、んあっ、あっ、あつ。

ん、ん、あつ。ふう……。

んっ！んんっ！

イク！イクイクイク！

先輩。おまんこ、イクっ！！！！

(絶頂)

あっ……。うっ……。

はあ、はあ……。んっ。ふう……。

ん、ん、ん、ん。

先輩。先輩。せんっ……。ぱいっ……。

あっ、んっ、ふう……。ふう。

好き……。先輩好き……。

んっ、んんっ。んっ。あつ。

あ、ダメ……。そこ。いいです……。

んふ……。んっ。あっ……。はあ……。

【ここから、最後の絶頂パート。

ここからはまた、連続して読んで欲しいです。】

ん、んあっ、あっ、んっ。
ん、んっ、あっ、はあ。

あ、あ、あ、んっ。

んっ。ん、んっ。あ、

そろそろ。また、イク……。

ん、ん、ん、ん。

あ、あ、あ、ふう。

先輩、好き。

イク。イク。イっちゃいます。

ん、ふう……。はあ、はあ。

イクイクイク。

ん！ んん！ んあっ……！ あっ………！（絶頂）

はあ……。ふう……。ふう……。ふう……。

【ここから、絶頂の余韻に浸るように、ゆったり喘いで】

う……。ああ……。

これでまた、返信できます。

まったくもう、先輩は……。

ん……。んん……。

はあ……。ふう……。ふう……。

了